

史 跡 斎 宮 跡

平成25年度現状変更緊急発掘調査報告

平成27(2015)年3月

明 和 町

序

史跡斎宮跡は指定35周年を迎える、ようやく町の活性化に向けた動きが見えてまいりました。まず、三重県が進めております実物大の建物復元が本年7月の完成に向けて着々と進められています。工事現場では昨年8月から毎月1回、建設工事見学会も開かれ、通常見ることのできない屋根に桧皮を葺く職人技を間近に見ることができ、多くの方が貴重な体験をしております。また、町民が長年願望していました近畿日本鉄道斎宮駅の北側に史跡公園口の改札と休憩所も完成し、3月19日（サ・イ・ク）にオープンいたします。来年も引き続きその周辺整備を急ピッチで進めていく所存です。

また、マスコットキャラクター「めい姫」のテーマソング「ユーメい姫ドリーム！」も完成し、「斎宮・外宮・内宮・伊勢の入口 明和町」のキャッチフレーズと共に町内外への情報発信することで斎宮跡の知名度向上を図り、町全域を捉えた地域活性化につなげていかなければならぬと考えています。

本報告書は、史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い発掘調査が必要であった17件の結果についてまとめたもので、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究課の方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成27（2015）年3月

三重県多気郡明和町

町長 中 井 幸 充

例　　言

- 1 本書は、平成25（2014）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち第179-2・11・12・15・16次調査は事業者が費用負担したが、それ以外については、国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。
- 4 調査区名の表示方法（例：6 A L 1 3）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館 2003）による。
- 5 遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表示している。
- 6 遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』（2001）を基準とした。
- 7 遺構名冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。

SA : 柱列・塙　　SB : 掘立柱建物　　SD : 溝　　SE : 井戸　　SF : 道路
SK : 土坑　　SH : 壺穴住居　　SZ : 落ち込み等　　SX : 墓・不明遺構
- 8 図面・写真等の調査資料類および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 9 本書の執筆は、伊藤文彦（斎宮歴史博物館）が前言・調査報告を、中野敦夫（明和町斎宮跡・文化観光課）が付編の執筆を行い、編集は伊藤・中野が担当した。

目　　次

I	前言	1
II	調査報告	
1	第179-1次調査	3
2	第179-2次調査	3
3	第179-3次調査	4
4	第179-4次調査	5
5	第179-5次調査	5
6	第179-6次調査	7
7	第179-7次調査	9
8	第179-8次調査	10
9	第179-9次調査	11
10	第179-10次調査	11
11	第179-11次調査	12
12	第179-12次調査	12
13	第179-13次調査	15
14	第179-14次調査	16
15	第179-15次調査	17
16	第179-16次調査	17
17	第179-17次調査	18
付編	史跡現状変更等許可申請	21

表・挿図目次

[表]

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

第3表 第179次調査 出土遺物観察表

第2表 第179次調査 遺構一覧表

第4表 平成25年度史跡現状変更等許可申請一覧表

[図]

第1図 発掘調査地位置図

第2図 第179-1次調査区位置図

- 第3図 第179-1次調査 遺構平面図・断面図
 第4図 第179-2次調査区位置図
 第5図 第179-2次調査 遺構平面図・断面図
 第6図 第179-3次調査区位置図
 第7図 第179-3次調査 遺構平面図・断面図
 第8図 第179-4次調査区位置図
 第9図 第179-4次調査 遺構平面図・断面図
 第10図 第179-5次調査区位置図
 第11図 第179-5次調査 遺構平面図・断面図
 第12図 第179-5次調査 遺物実測図
 第13図 第179-6次調査区位置図
 第14図 第179-6次調査 遺構平面図・断面図
 第15図 第179-6次調査 遺物実測図
 第16図 第179-7次調査区位置図
 第17図 第179-7次調査 遺構平面図・断面図
 第18図 第179-8次調査区位置図
 第19図 第179-8次調査 遺構平面図・断面図
 第20図 第179-8次調査出土遺物
 第21図 第179-9次調査区位置図
 第22図 第179-9次調査 遺構平面図・断面図
 第23図 第179-10次調査区位置図
 第24図 第179-10次調査 遺構平面図・断面図
 第25図 第179-11次調査区位置図
 第26図 第179-12次調査区位置図
 第27図 第179-11次調査 遺構平面図
 第28図 第179-11次調査 遺構断面図
 第29図 第179-12次調査 遺構平面図・断面図
 第30図 第179-13次調査区位置図
 第31図 第179-13次調査 遺構平面図・断面図
 第32図 第179-14次調査区位置図
 第33図 第179-14次調査 遺構平面図・断面図
 第34図 第179-14次調査 遺物実測図
 第35図 第179-15次調査区位置図
 第36図 第179-15次調査 遺構平面図・断面図
 第37図 第179-16・17次調査区位置図
 第38図 第179-16次調査 遺構平面図・断面図
 第39図 第179-17次調査 遺構平面図・断面図

写真図版

- 写真図版1 第179-5次調査 全景（東から）
 写真図版2 第179-5次調査 S H10652（北から）
 写真図版3 第179-6次調査全景（西から）
 写真図版4 第179-6次調査全景（北から）
 写真図版5 第179-8次調査全景（北から）
 写真図版6 第179-12次調査西トレンチ全景（東から）
 写真図版7 第179-12次調査中央トレンチ全景（北から）
 写真図版8 第179-16次調査全景（南から）
 写真図版9 第179-11次調査全景（北から）
 写真図版10 第179-14次調査南西トレンチ全景（北西から）
 写真図版11 第179-14次調査中央トレンチ全景（北西から）
 写真図版12 第179-14次調査北東トレンチ全景（北西から）

I 前言

史跡斎宮跡では、平成25年度に44件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40～50件程度で推移してきており、今年度も同様の傾向が窺える。

内訳をみると、個人住宅の新築や改築および撤去、合併浄化槽の設置、太陽光発電施設の設置といった史跡内住民の生活維持のための現状変更に加え、三重県による復元建物建設と明和町による歴史的風致維持向上計画、いわゆる歴まち事業に伴う事前の発掘調査等があった。このうち、発掘調査が必要となった案件は17件であった。

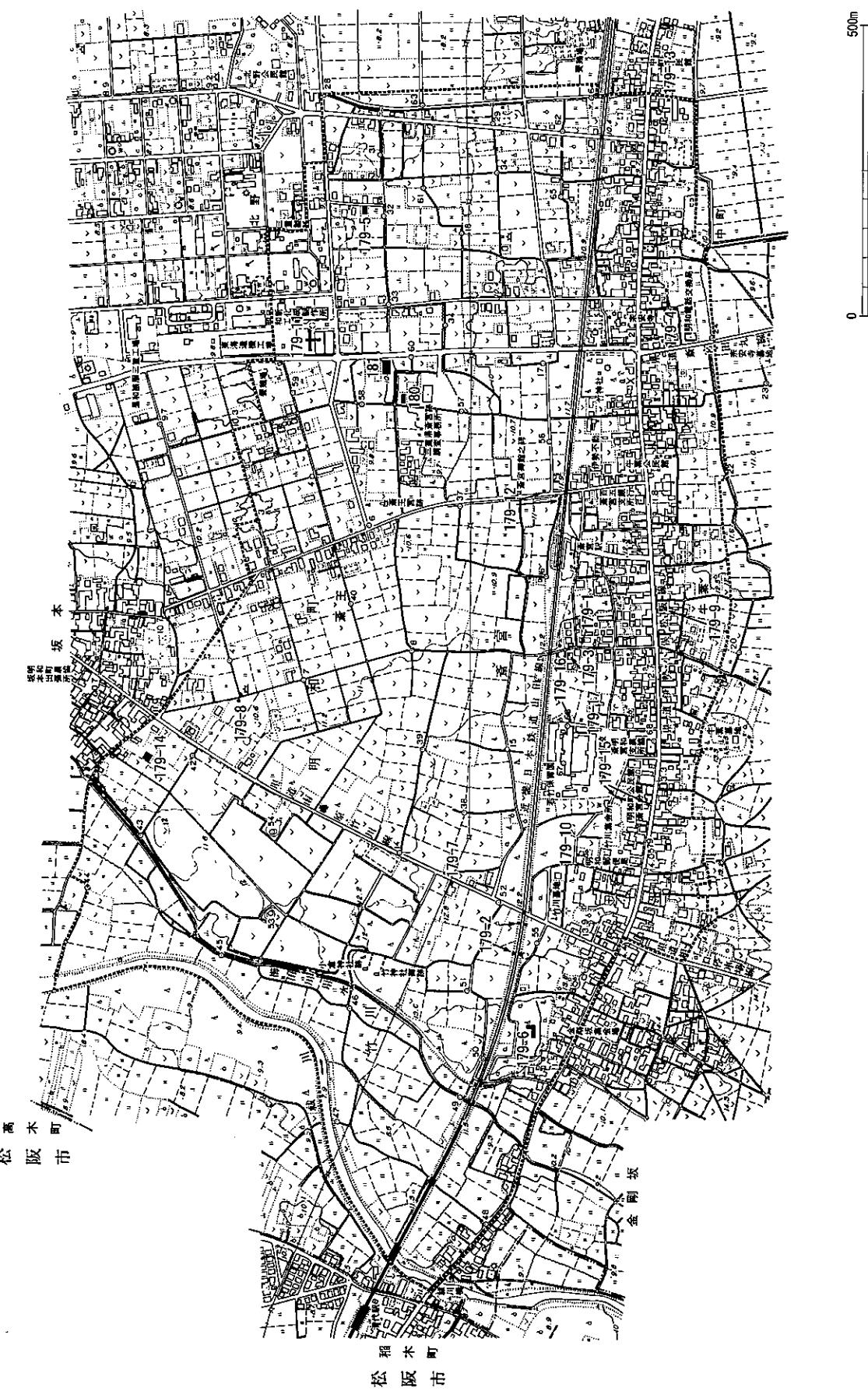
第179-11次調査は明和町の歴史的風致維持向上計画の事業内容検討のため、地下遺構の確認を目的として224m²の調査を行ったものである。これは平成25年度に実施した現状変更に伴う発掘調査面積全体（640.7m²）の36.9%にあたる。第179-1・3・4・5・8・13・17次調査は個人住宅の新築・改築に伴う調査で、建物の基礎にあたる部分を中心に調査を行った。第179-7・9・10次調査は浄化槽設置に伴うもので設置位置の調査を行った。第179-6・14次調査は太陽光発電施設の設置に伴うもので、発電パネルの基礎にあたる部分を中心に調査を行った。

平成25年度の史跡現状変更に伴う調査では、遺構密度や遺構面の高さの確認など史跡保護に係るデータの蓄積がなされ、斎宮跡の実態解明にとって貴重な成果となった。
 (伊藤文彦)

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積 (m ²)	うち補助金調査件数	同調査面積 (m ²)
昭和 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	13	2,171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448.2	13	448.2
23	43	13	1,070.7	10	223.8
24	35	8	1,899.2	6	91
25	44	17	640.7	12	370.4
計	1,551	396	66,804.8	245	24,963.1

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

II 調査報告



第1図 発掘調査位置図 (1:10,000)

-2-

1 第179-1次調査 (6AM12)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字広頭

3389-10

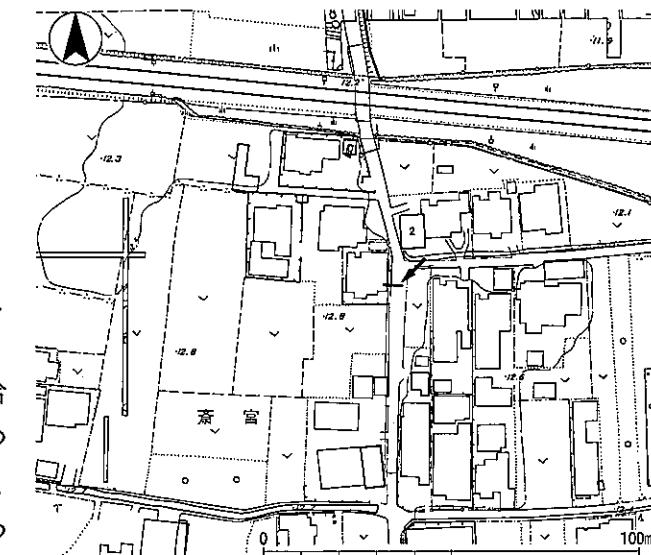
原因 給水管工

調査期間 平成25年5月1日

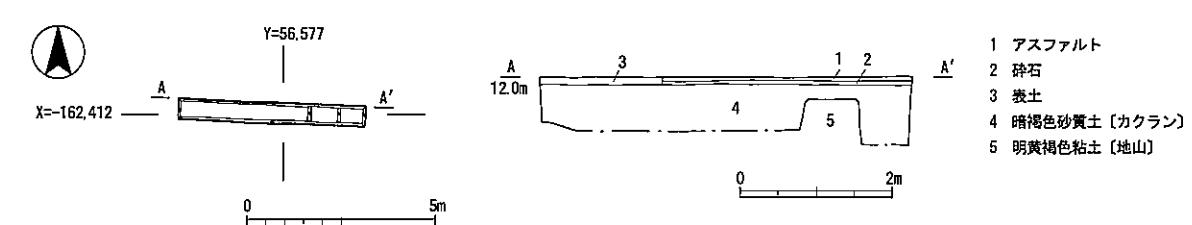
調査面積 2.5m²

調査概要

調査地は、史跡中央南部の広頭地区に位置し、平安時代斎宮の方格地割でいう「内山西区画」の西端付近に位置する。今回の調査は住宅の給水管工事に伴い、道路部分および宅地部分について発掘調査を実施したものである。調査地は、部分的に表土下0.3mで黄橙色粘土の地山面をわずかに確認したが、ほぼ全面に搅乱を受けており、遺構や遺物は確認できなかった。



第2図 第179-1次調査区位置図 (1:2,000)



第3図 第179-1次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

2 第179-2次調査 (6AH10H11)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字中垣内

439-3、446-3、447-3

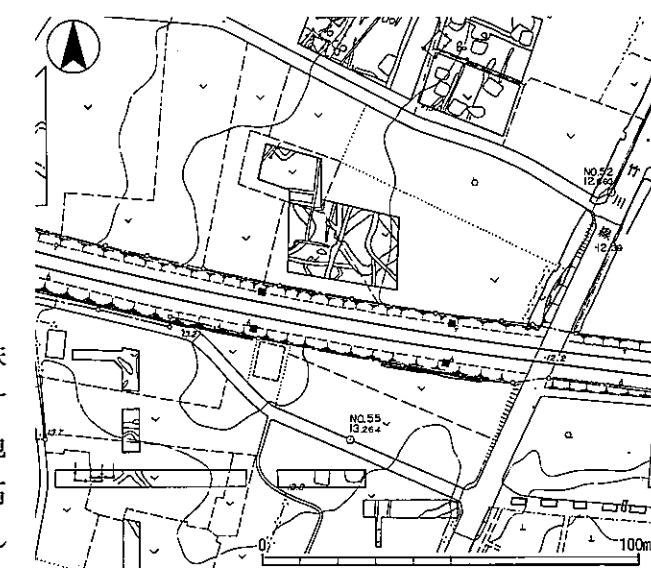
原因 鉄塔付替

調査期間 平成25年5月11日、5月15日

調査面積 9.5m²

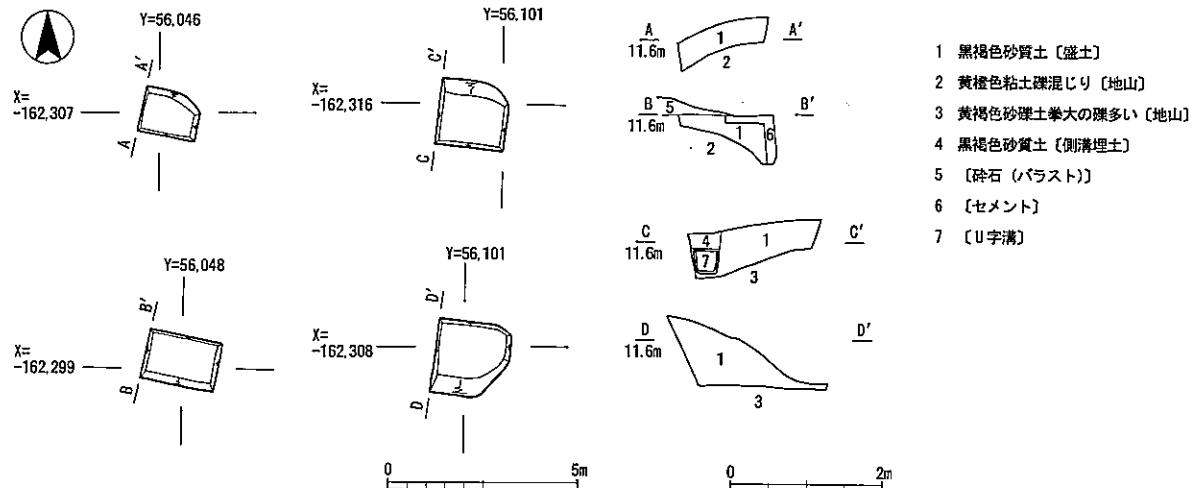
調査概要

鉄塔の更新に伴い実施した発掘調査である。調査地は斎宮歴史博物館から南西に約450mの鉄道の軌道敷内である。4か所にトレンチを設けて掘削を行ったところ、いずれのトレンチも地山直上まで搅乱が及んでいた。地山面は、標高11.6～11.0mで確認している。遺構は検出されなかった。



第4図 第179-2次調査区位置図 (1:2,000)

-3-



第5図 第179-2次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

3 第179-3次調査(6AM11)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮3389-10、
3389-11、3389-15

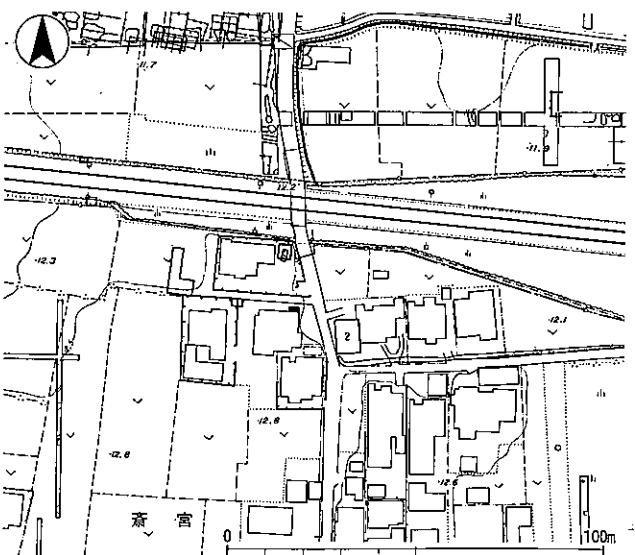
原 因 住宅改築

調査期間 平成25年5月16日

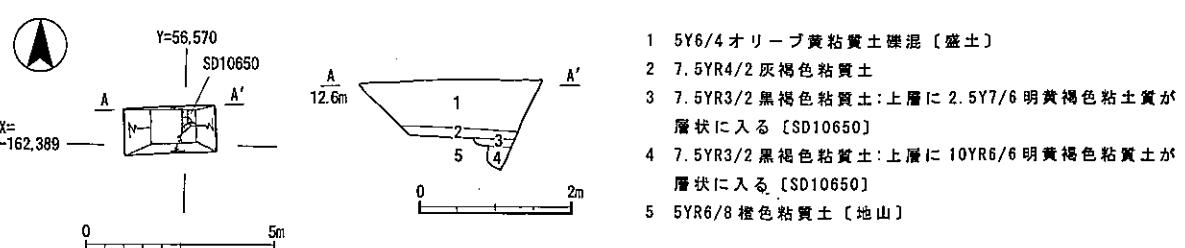
調査面積 2.9m²

調査概要

浄化槽の設置とともにない、事前に実施した発掘調査である。調査地は斎宮駅の西方約200mの地点である。掘削を行ったところ、現地表下0.7m（標高11.9m）で遺構面を確認し、調査区の東端で南北方向に延びる溝SD10650を検出した。溝は上下2層に分かれる。下層は厚さ32cmを測り、上層は厚さ10cmを測る。調査区端にかかるつており、幅は不明である。遺物は灰釉陶器小片と土師器小片が1点ずつ検出されたが、遺物が少量であるため溝の時期は不明である。



第6図 第179-3次調査区位置図(1:2,000)



第7図 第179-3次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

4 第179-4次調査(6AS13)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字中西

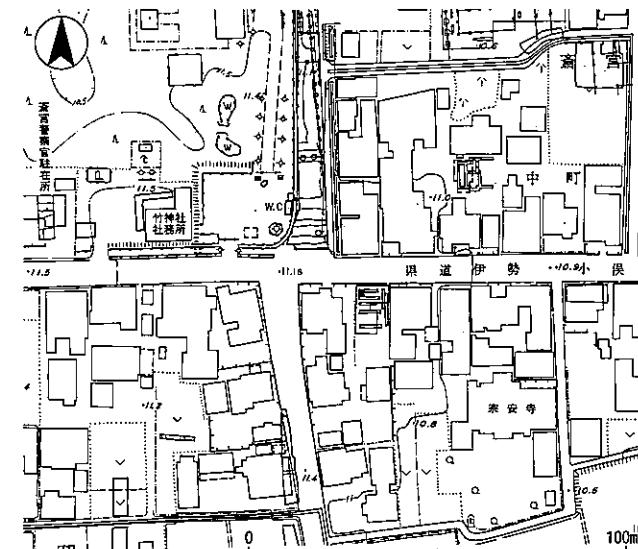
582番2

原 因 住宅建替

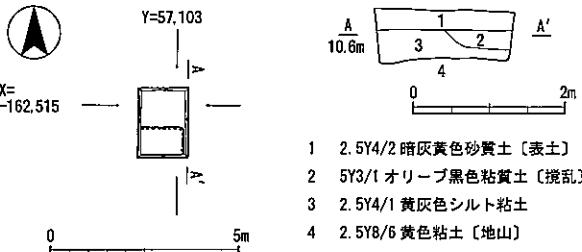
調査期間 平成25年5月21日

調査面積 2.3m²

調査概要 浄化槽の新設工事に伴い、事前に実施した発掘調査である。調査地は、竹神社の南東約30mの地点である。基本層序は表土、黄灰色シルト粘土層、黄色粘土層（地山）である。近世以降の擾乱が認められたほかは、遺構、遺物ともに確認されなかった。



第8図 第179-4次調査区位置図(1:2,000)



第9図 第179-4次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

5 第179-5次調査(6AU8)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字東前沖

2494番3

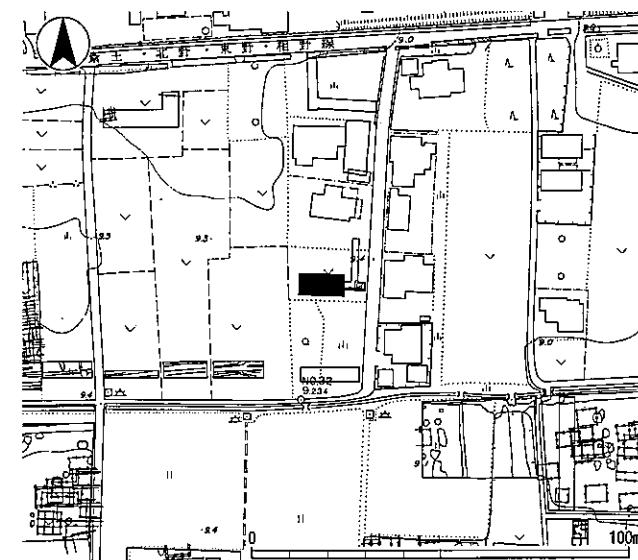
原 因 住宅新築

調査期間 平成25年9月4日～9月19日

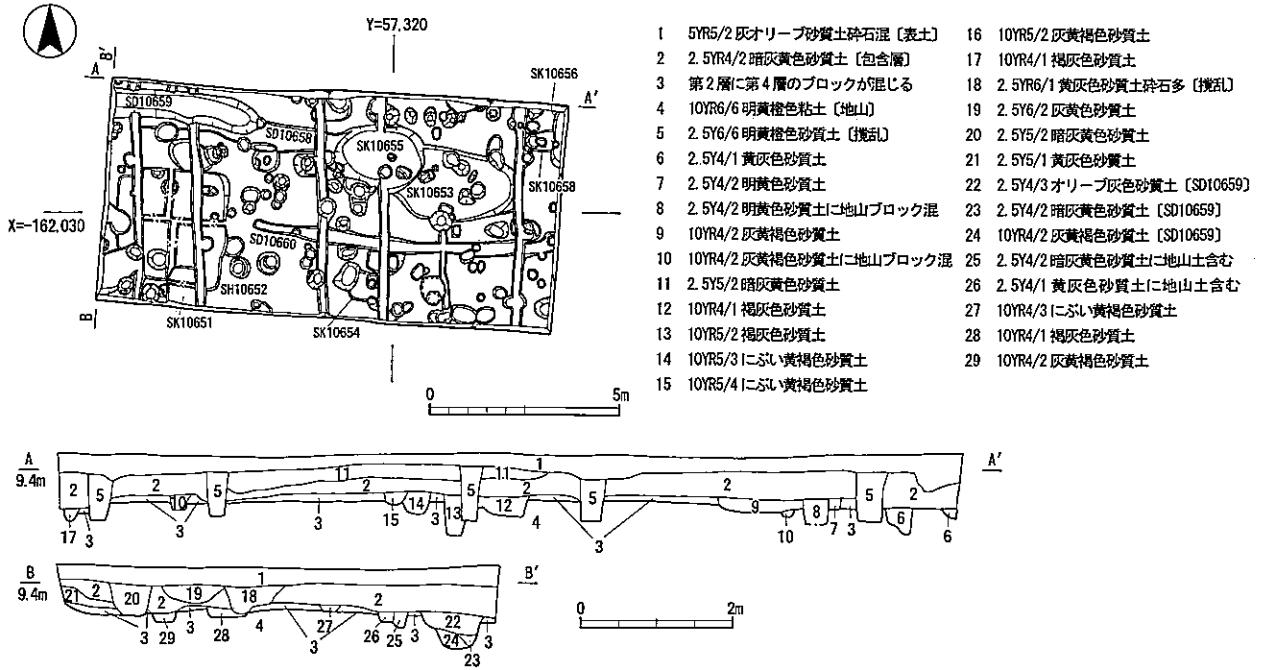
調査面積 72m²

調査概要

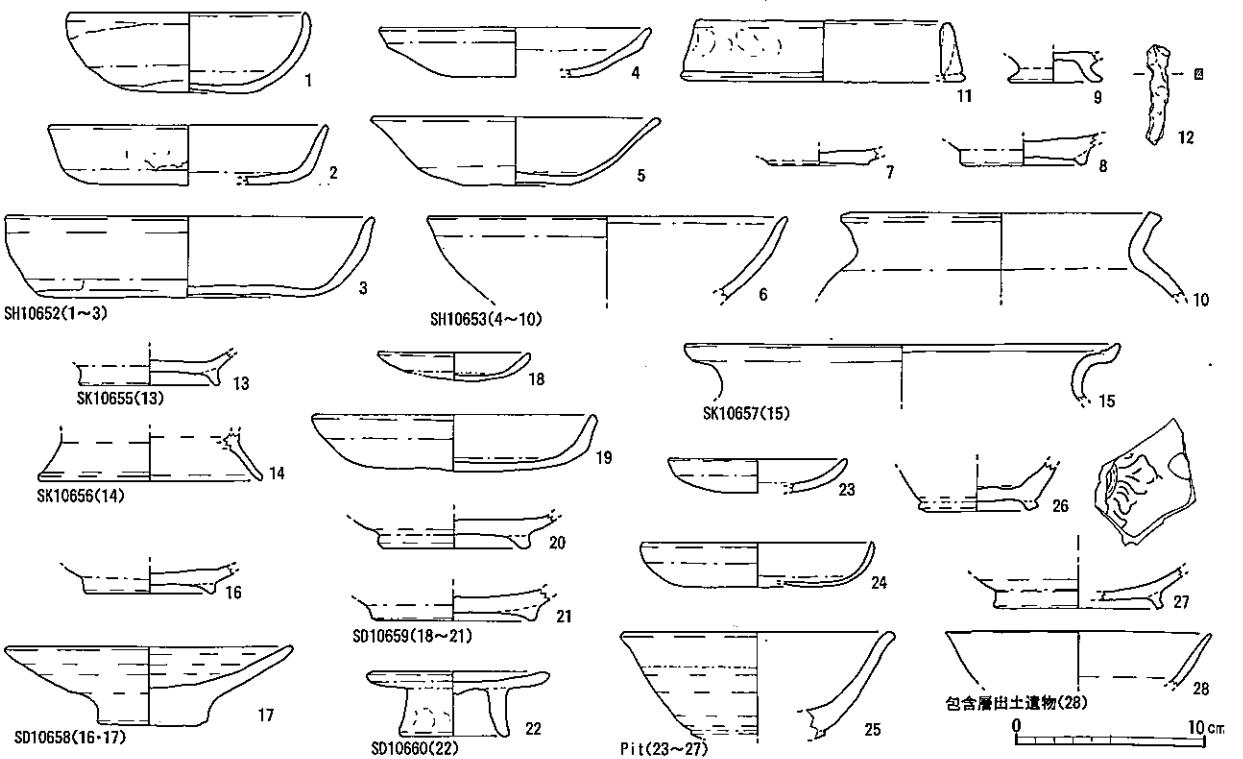
住宅の新築工事に伴い、事前に実施した発掘調査である。調査地は斎王の森の東500mに位置し、方格地割よりも北側にあたる。掘削を行ったところ、現地表下0.5m（標高9.1m）で遺構面を確認した。確認した遺構は土坑10基、溝3条で、これ以外に多数の柱穴を確認しており、遺構密度は高い。このうちSH10652は堅穴住居と考えられる方形の土坑で、一辺は約2.9mを測る。出土した遺物はいずれも奈良時代後半（I～III期）に属するものである。これ以外の遺構の多くは、出土した遺物から平安時代に属すると考えられる。方格地割の北側に平安時代の遺構が広がることはこれまでの調査でも知られているが、本次調査でも同様の状況が確認された。方格地割北側の土地利用状況を示す貴重な調査事例である。



第10図 第179-5次調査区位置図(1:2,000)



第11図 第179-5次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)



第12図 第179-5次調査 遺物実測図(1:4)

6 第179-6次調査(6AG11)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字中垣内

434番1、464番2

原因 発掘調査

調査期間 平成25年10月22日～12月6日

調査面積 154m²

調査概要

第179-6次調査は、史跡西南部の台地縁辺に近いところに位置する。現状変更に伴い申請地の地下遺構の状況を確認する目的で発掘調査を実施した。当該調査区付近では、平成17年度に第146次調査を実施しており、逆L字状に巡る、掘立柱塹S A9472を確認し、奈良時代前半の斎宮にあたる可能性が推定されている。また、S A9472の約23m南には東西方向の掘立柱塹S A9487が2間以上、さらにその南側には東西溝S D9466が検出され、位置関係から掘立柱塹に伴う溝の可能性が想定されている。S D9466からは斎宮跡土器編年のII-3期の遺物が出土しており、掘立柱塹についても同時期の遺構であるとされている。今回の調査は主にこの掘立柱塹S A9487の状況を確認するため、逆L字状に幅4mの調査区を設定するとともに、南側の東西溝については、幅1mほど調査区を延伸して確認することにした。

基本層序

基本層序は、耕土、床土、灰黃褐色土、黃橙色粘土(地山)であるが、場所によっては黒褐色土(クロボク)が黃橙色粘土層上面に広がる。現地表下0.3～0.4cm(標高13.7～13.6m)で遺構面を確認した。

遺構

S A9487 掘立柱塹である。西側は攪乱により壊されていたが東西7間分確認され、北側に屈曲することを確認した。一辺約0.6mの隅丸方形を呈し、柱間は2.2m、方向は約2度北で西に振れている。埋土に灰白色粘土粒を含むことが特徴である。遺物はほとんど出土していない。

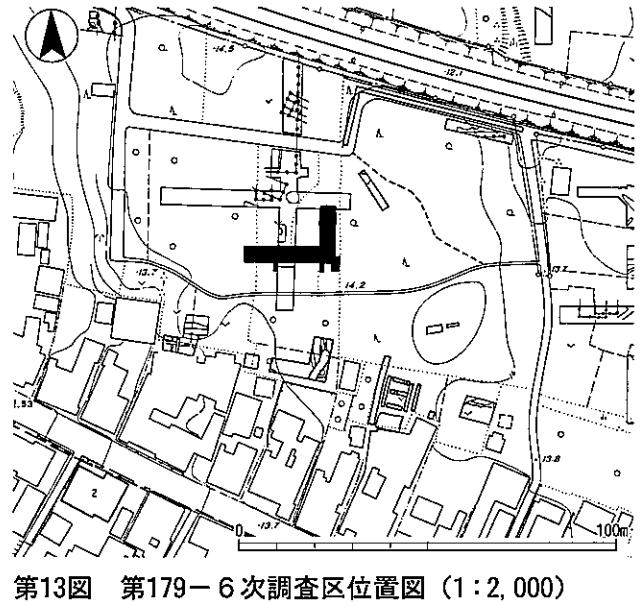
S D9466 東西方向の溝である。調査区拡張部の西側と中央東側で確認したが、中央東側では浅くなり、東端の拡張部まで伸びないことを確認した。遺物は少ないがII-3期の灰釉陶器の小片(第15図5)が出土している。

S D10669 東側調査区の南側の東壁にそって確認した南北溝である。東南部の調査区拡張部で幅約1m、深さ約0.6m、方向は掘立柱塹とは異なり北で東に振れる。埋土には灰白色粘土層が確認でき、II-3期の土師器杯(第15図7)が出土した。

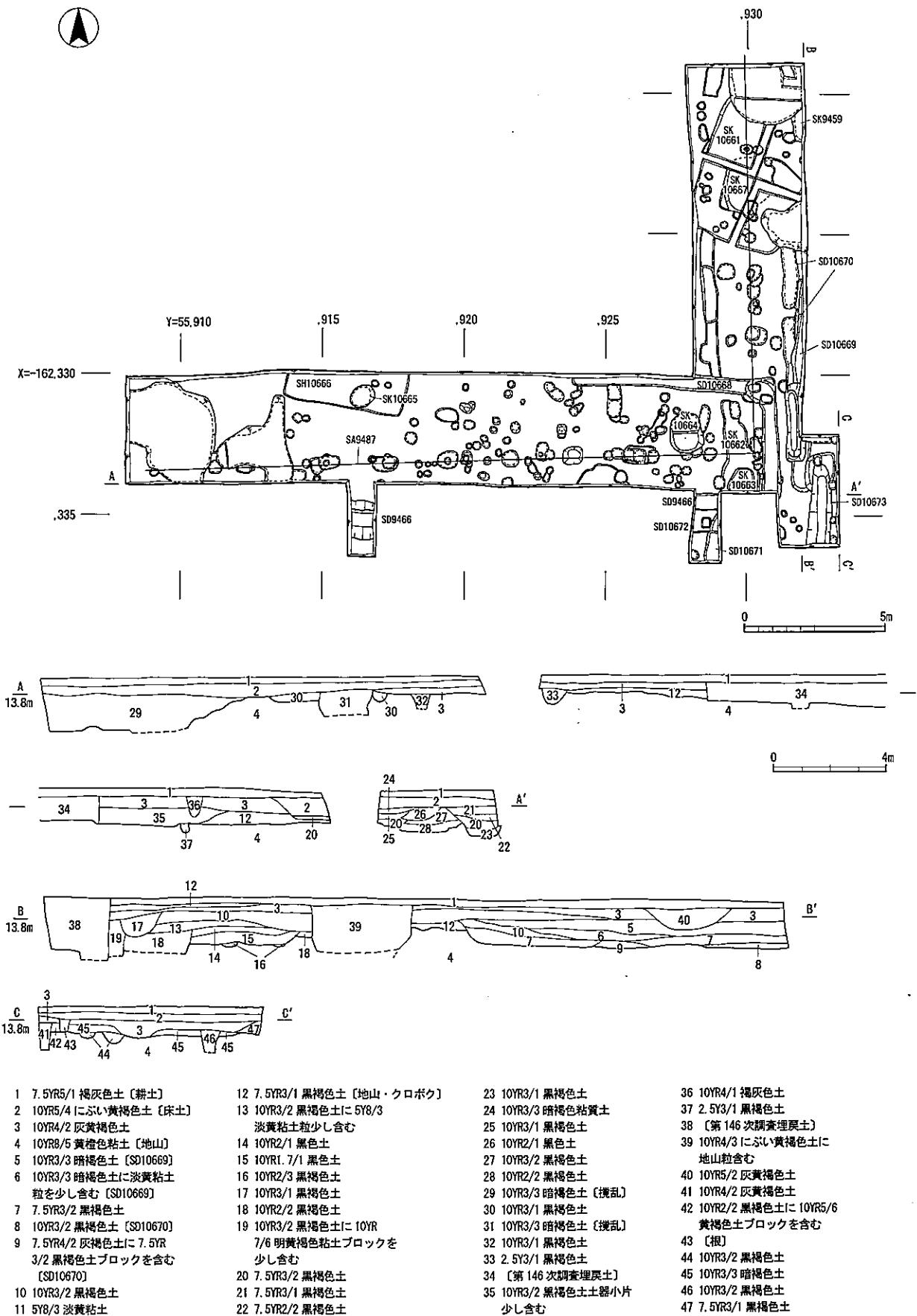
S D10670 S D10669に先行する。幅0.5m。南側は長さ5mを測り、両側が深く掘削され、溝持ち掘方の様相を呈しているが、柱痕跡等は確認できることからここでは溝とする。遺物は弥生土器片が出土しているが混入であろう。溝の方向は掘立柱塹S A9487に近い。

S K9459 東側調査区北東部に位置する土坑で、堅穴住居より新しい。位置から見て、第146次調査で確認したS K9459と同一の遺構と判断した。第146次調査ではII-3期の遺構としている。

このほかの遺構としては、調査区西側では古墳時代前期末の土坑S K10665や、それよりは新しい堅穴住居S H10666なども確認した。



第13図 第179-6次調査区位置図(1:2,000)



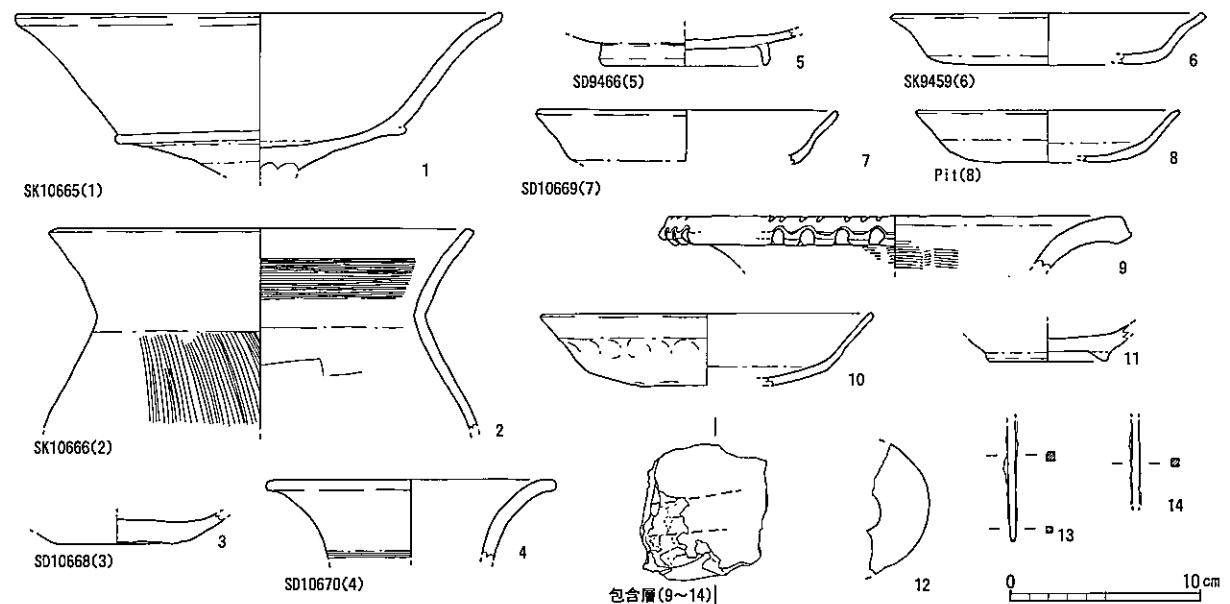
第14図 第179-6次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

遺物

出土した遺物は少ない。遺物の所属時期は弥生時代から平安時代にまでおよぶが、飛鳥・奈良時代の遺物は少ない。実測できた遺物の大半は平安時代(II期)に属するものである。そのほか、包含層ながら輪羽口と鉄製釘が出土しているほか、弥生時代中期の壺(第15図4・9)が出土していることも注目されよう。

まとめ

今回の調査で確認できたSD9466、SD10669、SK9459は方向から見て特定の区域を区画する溝の一部と考えられよう。出土した遺物からは平安時代前期(II-3期)に所属すると考えられる。これらに平行する掘立柱塀SA9487や、先行する溝SD10670の所属時期を明確にすることはできないが、平安時代前期(II-3期)に区画溝が存在することやその方向を考慮すれば、ここではこれらも平安時代に所属する可能性が高いだろう。



第15図 第179-6次調査 遺物実測図(1:4)

7 第179-7次調査(6A+9)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字中垣内

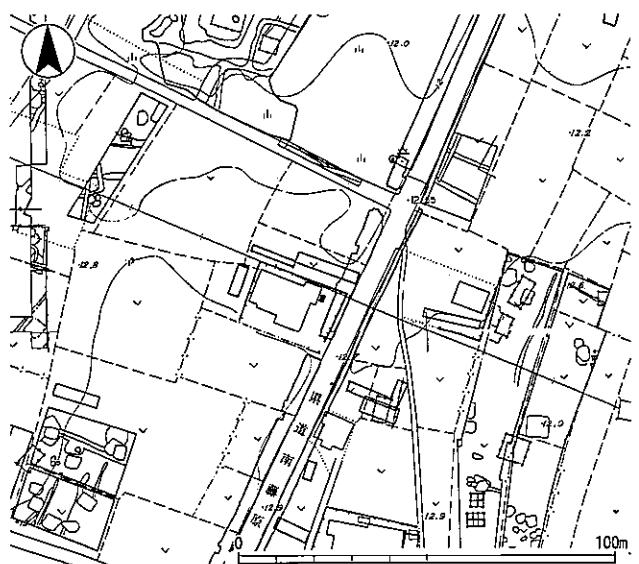
375-1

原因 浄化槽新設

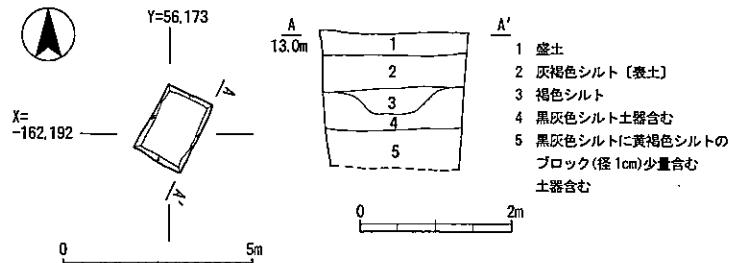
調査期間 平成25年10月19日

調査面積 2.7m²

調査概要 浄化槽の設置工事に伴い実施した発掘調査である。調査地は斎宮歴史博物館の南300mの地点である。掘削を地表下1.8m(標高11.3m)まで行ったが、地山面は確認できなかった。基本層序は、盛土、灰褐色シルト(旧表土)、黒灰色シルトである。遺構・遺物は確認されなかった。



第16図 第179-7次調査区位置図(1:2,000)



第17図 第179-7次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

8 第179-8次調査 (6 A L 6)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字古里

3282番

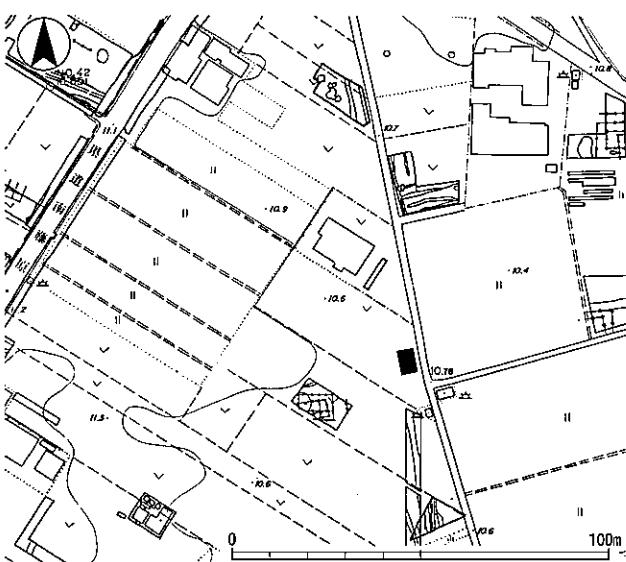
原 因 住宅新築

調査期間 平成25年12月17日～12月26日

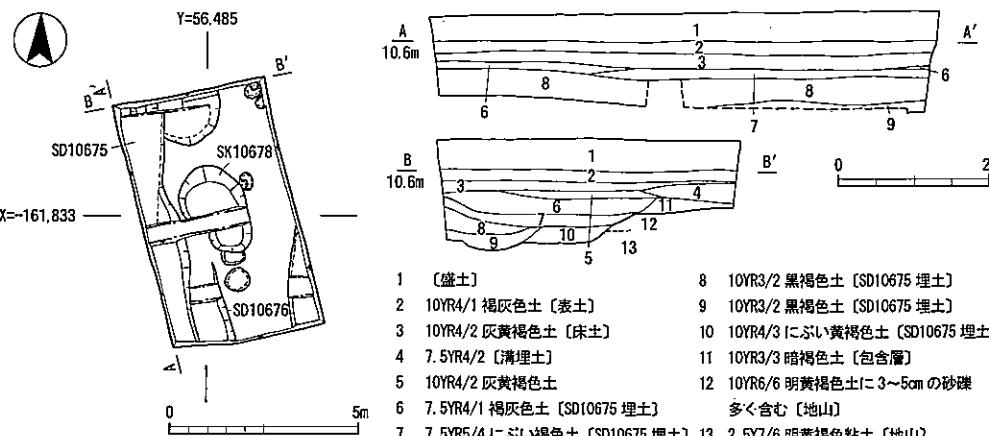
調査面積 26.8m²

調査概要 調査地は史跡北西部、斎宮歴史博物館の東側約200mに位置する農地で、個人住宅の新築に伴い発掘調査を実施した。基本層序は、盛土、旧表土（耕作土）、床土、暗褐色土（包含層）、明黄褐色礫混土（地山）で、現地表下0.9m（標高10.1m）で地山面を検出した。遺構はこの地山層上面で確認した。調査の結果、土坑2基、溝3条、柱穴を確認した。このうち、SD10675は昭和56年度第41次調査で検出され

たSD2320に連続する可能性があるが、SD2320は奈良時代の遺構と報告されており、ここでは別遺構として報告する。



第18図 第179-8次調査区位置図 (1:2,000)



第19図 第179-8次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)



第20図 第179-8次調査出土遺物 (1:4)

9 第179-9次調査 (6 A N 13)

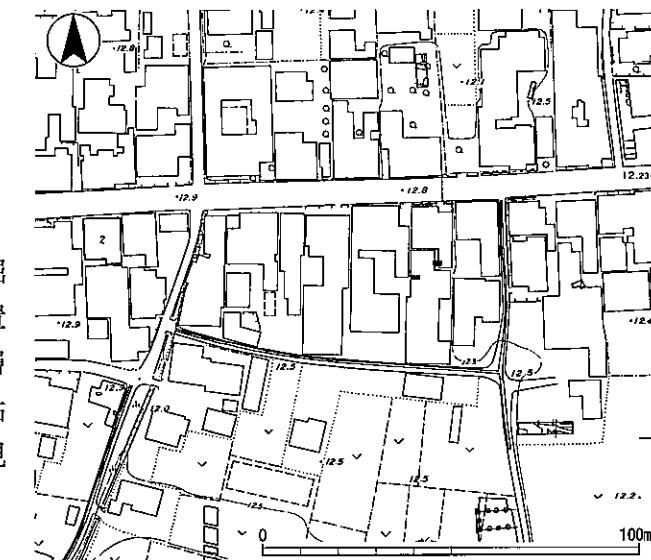
調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉110番

原 因 净化槽改修

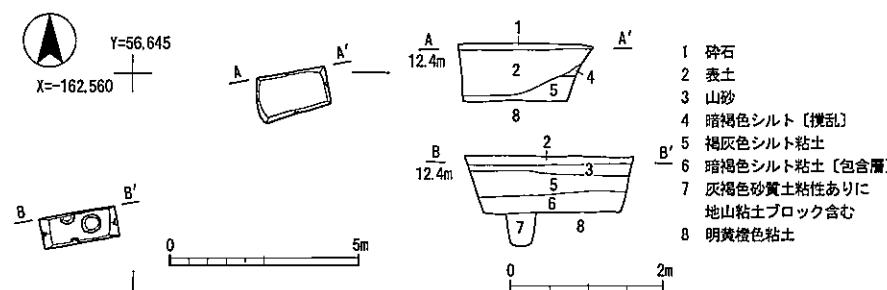
調査期間 平成25年12月19日

調査面積 3.6m²

調査概要 净化槽の改修に伴い、実施した発掘調査である。調査地は斎宮駅の南西200mの位置である。2カ所にトレーナーを設置した。基本層序は表土、褐灰色シルト粘土、暗褐色シルト粘土（包含層）、明黄橙色粘土（地山層）で、現地表下0.7mの地山層上面で遺構を確認した。西側のトレーナーでピット3基を確認した。

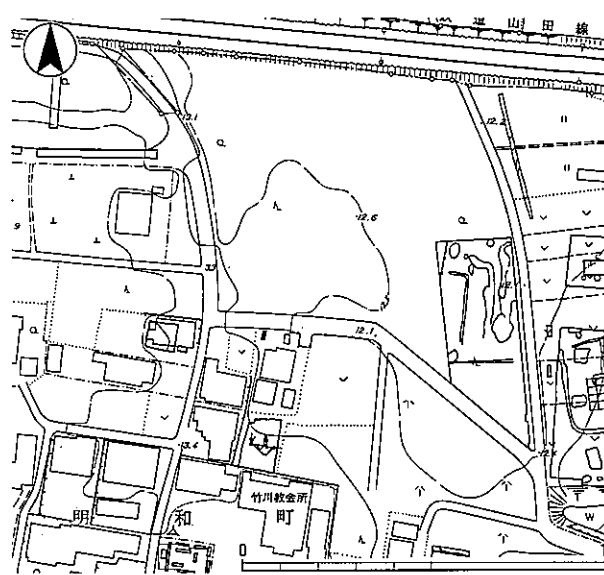


第21図 第179-9次調査区位置図 (1:2,000)

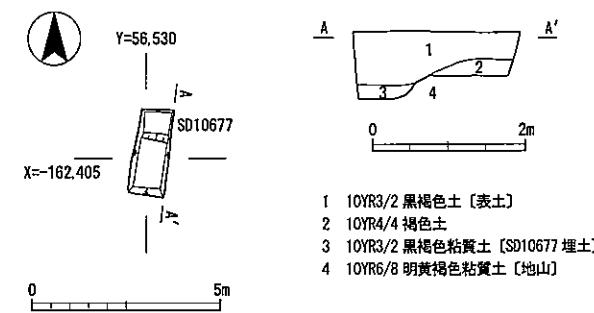


第22図 第179-9次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

10 第179-10次調査 (6 A J 12)



第23図 第179-10次調査区位置図 (1:2,000)



第24図 第179-10次調査 遺構平面図 (1:200)
・断面図 (1:100)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字東裏

278番3、278番4

原 因 净化槽新設

調査期間 平成25年12月20日

調査面積 2.0m²

調査概要 調査地は史跡南西部、斎宮小学校の西約100mに位置する宅地で、個人住宅の浄化槽新設部分について発掘調査を実施した。基本層序は、表土、褐色土、明黄褐色粘質土（地山）で、現地

表下0.6m（標高11.5m）で地山層上面を確認した。遺構は地山層上面で確認し、調査区北側で東西方向の溝1条を検出した。溝の深さは0.3m。溝の埋土から平安時代前期の土器3点が出土した。

11 第179-11次調査（6 AR 7・S 7）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字西前沖

2604-49

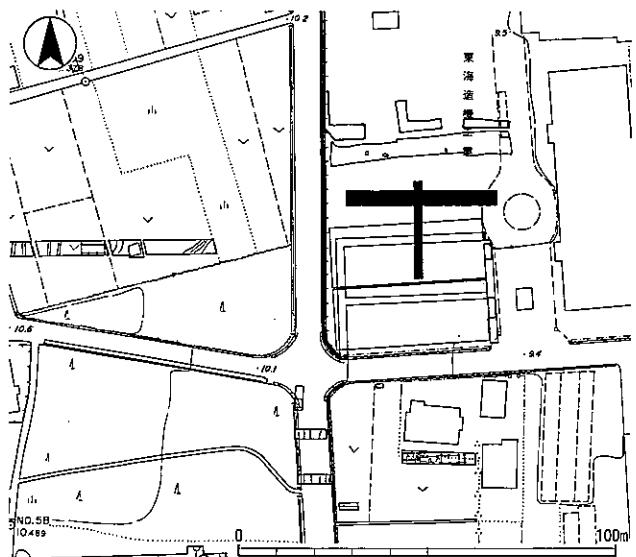
原 因 発掘調査

調査期間 平成26年1月7日～1月28日

調査面積 224m²

調査概要 明和町の歴史的風致維持向上計画にもとづく事業内容の検討に伴い、地下遺構の確認を行う目的で実施した発掘調査である。

調査地は平安時代の方格地割でいうところの西加座北区画のさらに北側隣接地である。東西に40m×4m、南北36m×2mのトレンチを設定した。基本層序は盛土、黒褐色土（包含層）、にぶい黄褐色粘質土（地山）であるが、調査区の北側は盛土が厚く、攪乱が地山直上まで及んでいる状況が認められた。遺構は地山直上で検出した。遺構面は、南北トレンチの南端で現地表下0.6m（標高9.2m）、北端で現地表下1.1m（標高8.9m）、東西トレンチの西端で現地表下0.7m（標高9.2m）、東端で現地表下1.1m（標高8.8m）である。確認した遺構は掘立柱建物4棟、土坑3基である。このうち、掘立柱建物SB10681は柱間2.15m、柱掘形は一辺56cmの隅丸方形を呈し、柱痕は直径16～18cmを測る。埋土は黒色土であり、平安時代前期に遡る可能性がある。方格地割の北側にも建物が展開していたことが再確認された。方格地割の北側では、第181次調査でも方格地割の方向に沿う掘立柱建物が確認されている。方格地割の区画外における斎宮の実態解明については、今後の継続した調査が必要といえよう。



第25図 第179-11次調査区位置図（1:2,000）

12 第179-12次調査（6 AP 11）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字内山3046-12

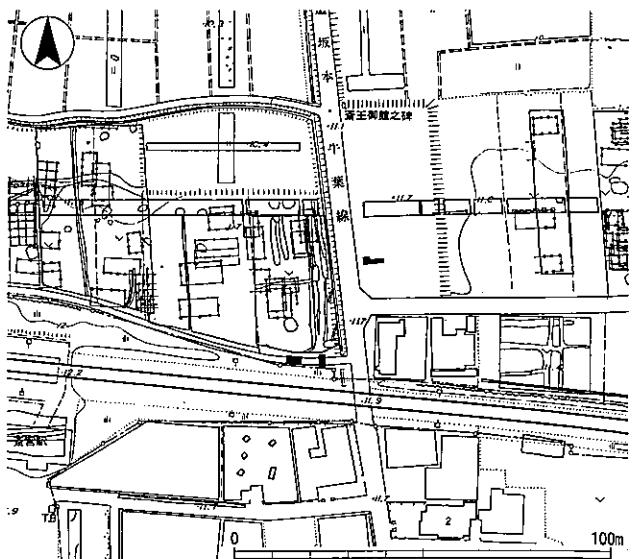
多気郡明和町大字斎宮字御館2970-2

原 因 発掘調査

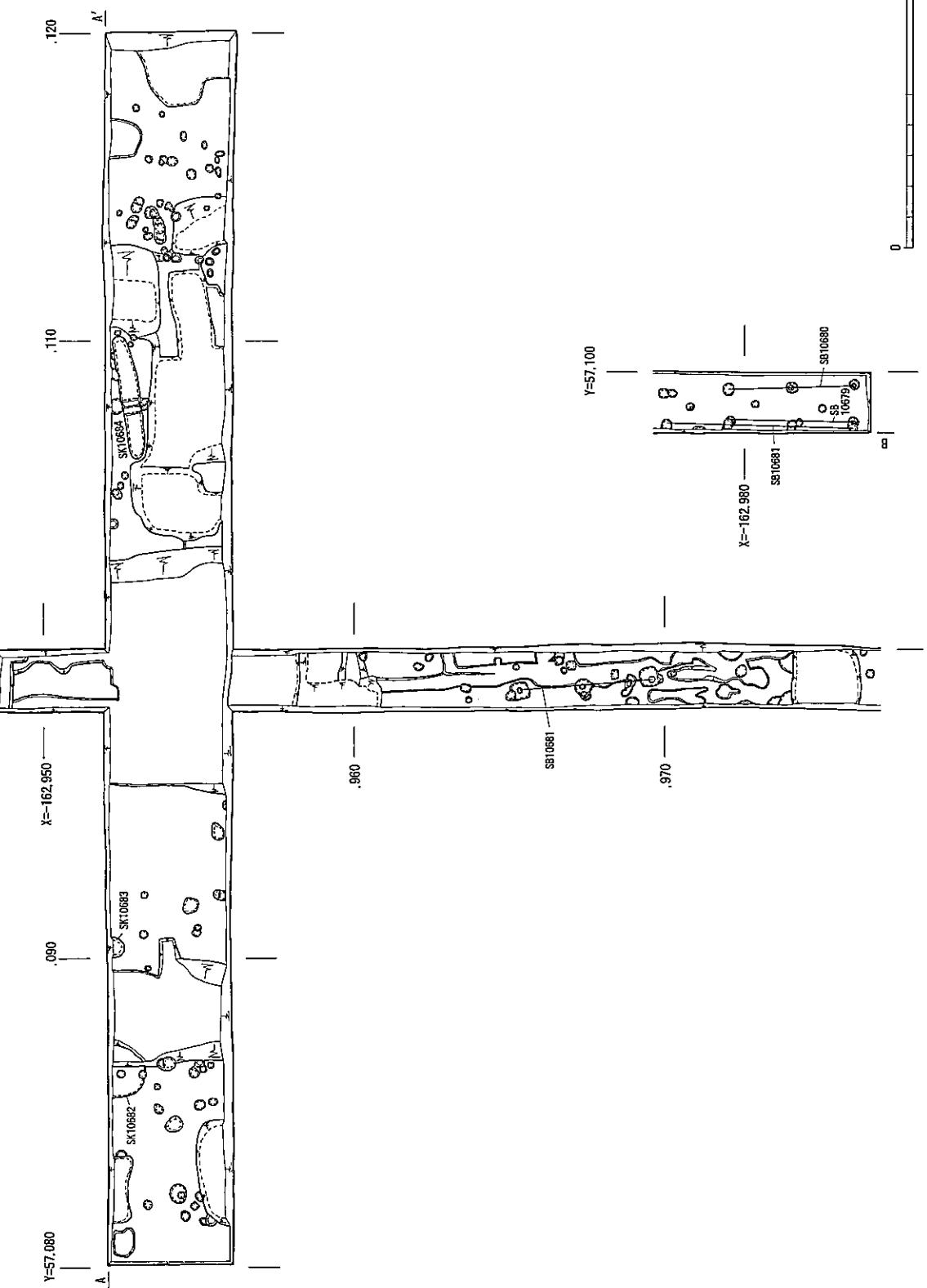
調査期間 平成26年1月22日～1月23日

調査面積 21.8m²

調査概要 明和町の歴史的風致維持向上計画に基づく事業に伴い、地下遺構の状況確認を目的として実施した発掘調査である。調査区は史跡中央部、いつきのみや歴史体験館の東側に1カ所（東トレンチ）、南側に2カ所（西トレンチ、中央トレンチ）を設けた。東トレンチでは、現地表下1.6m（標高9.96m）で地山面を確認した

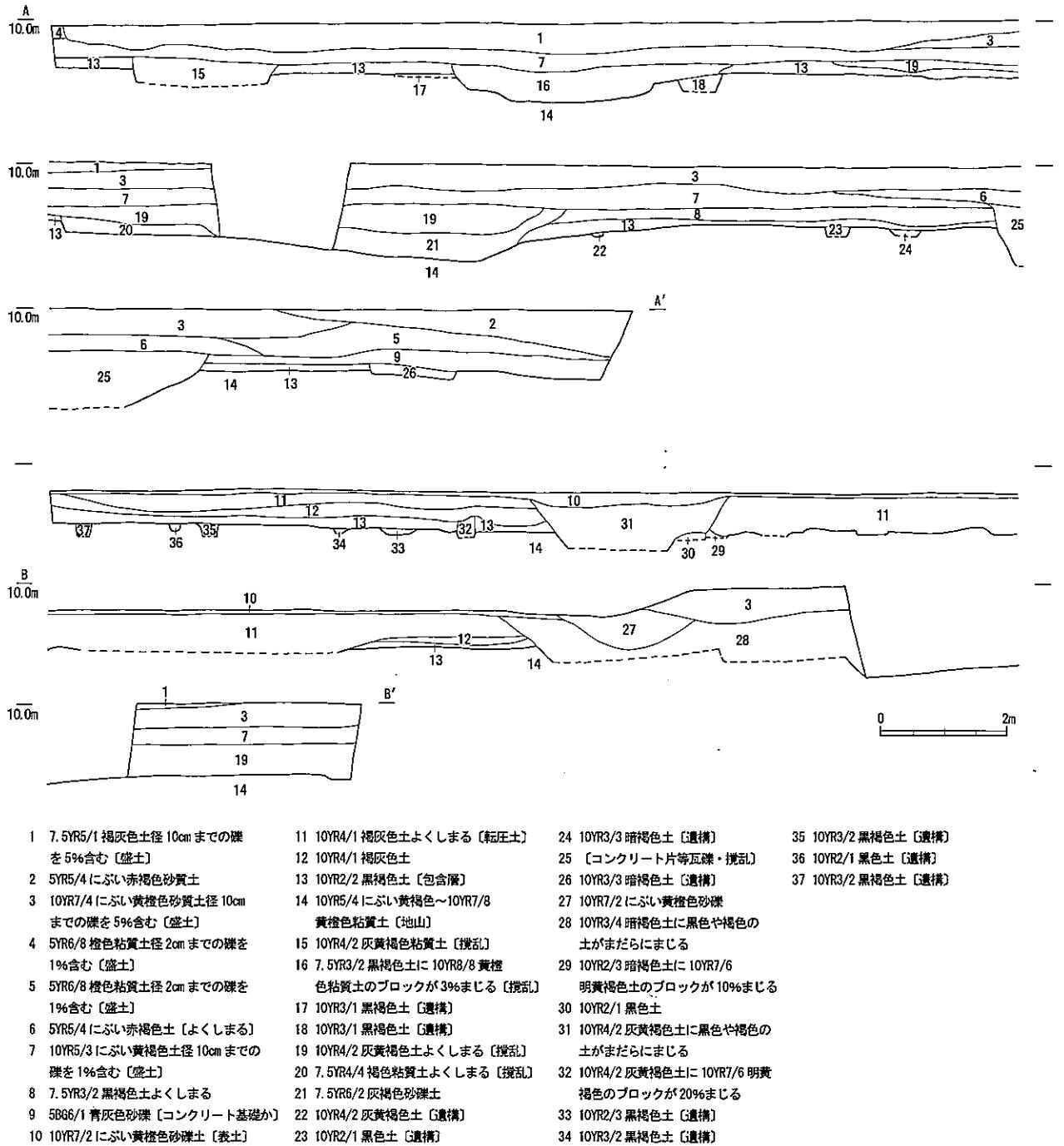


第26図 第179-12次調査区位置図（1:2,000）

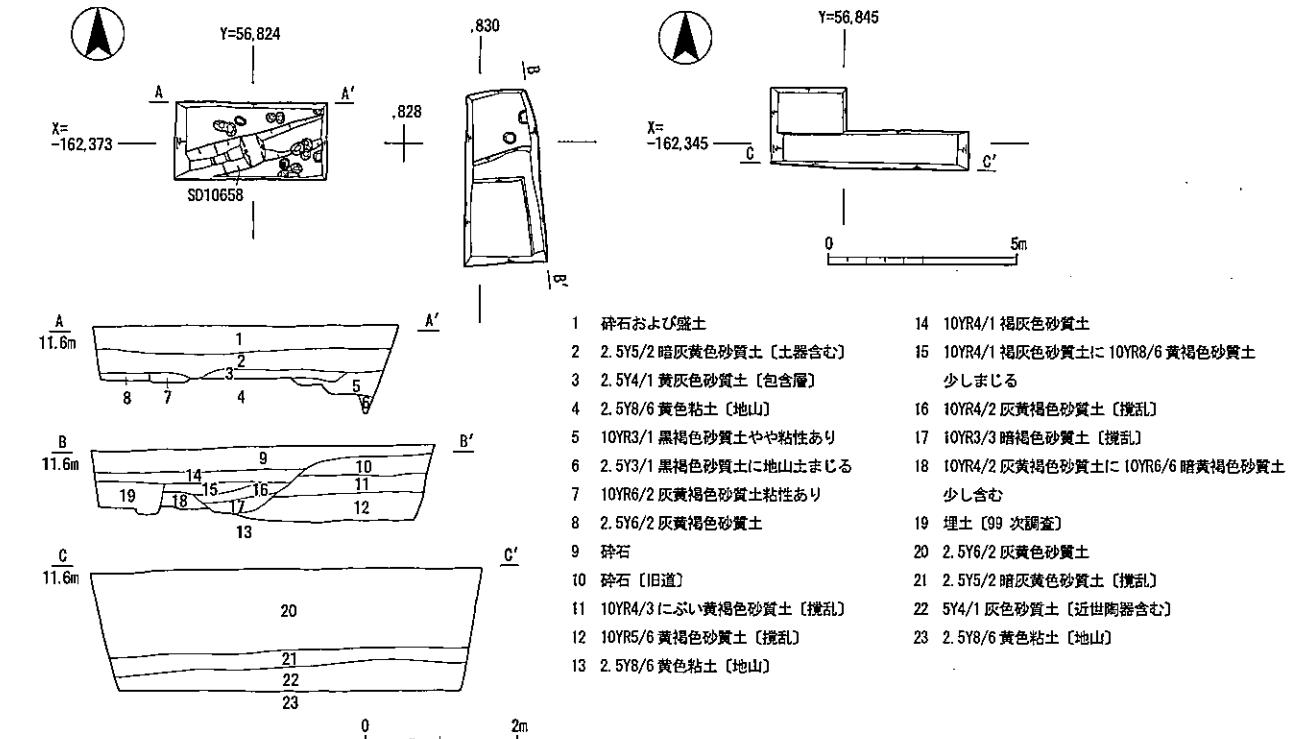


第27図 第179-11次調査 遺構平面図（1:200）

が、土取りのため大きく攪乱を受けており、遺構は確認できなかった。一方、南側の西トレーニング、中央トレーニングでは、現地表下0.5m（標高11.2m）で遺構面を確認した。確認した遺構は溝SD10685とピットである。SD10685は東西方向の直線で、断面は逆台形を呈し、E16°Nの方向である。本調査においては、御館区画の西側南北道路と、内山東区画の北側道路の側溝を検出する可能性を想定していたが、今回検出したSD10685は方向が合わず、これには該当しない。今後の調査が待たれよう。



第28図 第179—11次調査 遺構断面図 (1:100)



第29図 第179-12次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

13 第179—13次調查 (6 AW13)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字笛川

1065-3の一部、1065-4

原 因 住宅改築

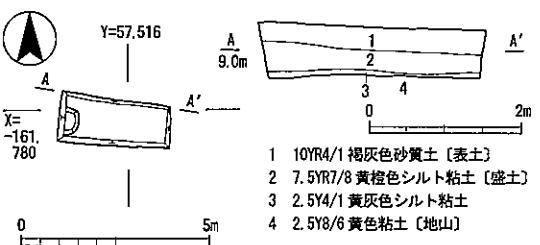
調査期間 平成26年

調査面積 3.6m²

調査概要 住宅の改築に伴い、実施した発掘調査である。調査地は竹神社の東方、約450mの位置である。掘削を行ったところ現地表下0.6mで地山面を確認し、地山直上で近世の土坑1基を確認した。



第30図 第179-13次調査区位置図 (1:2,000)



第31図 第179-13次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

14 第179-14次調査 (6 A K 4)

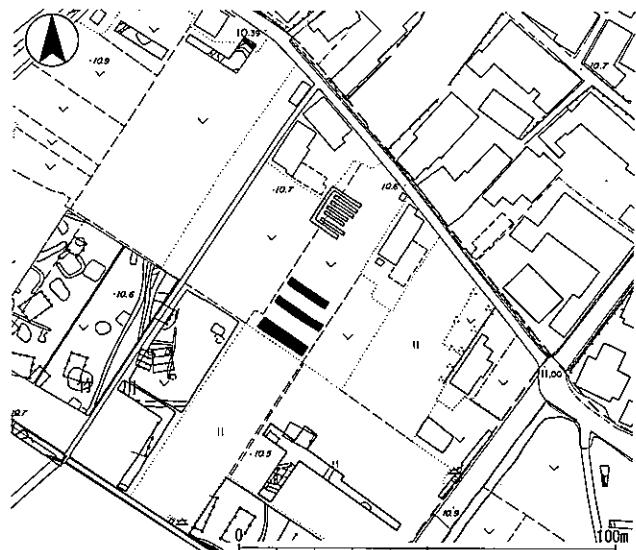
調査場所 多気郡明和町大字竹川字古里592-11

原 因 太陽光発電施設設置

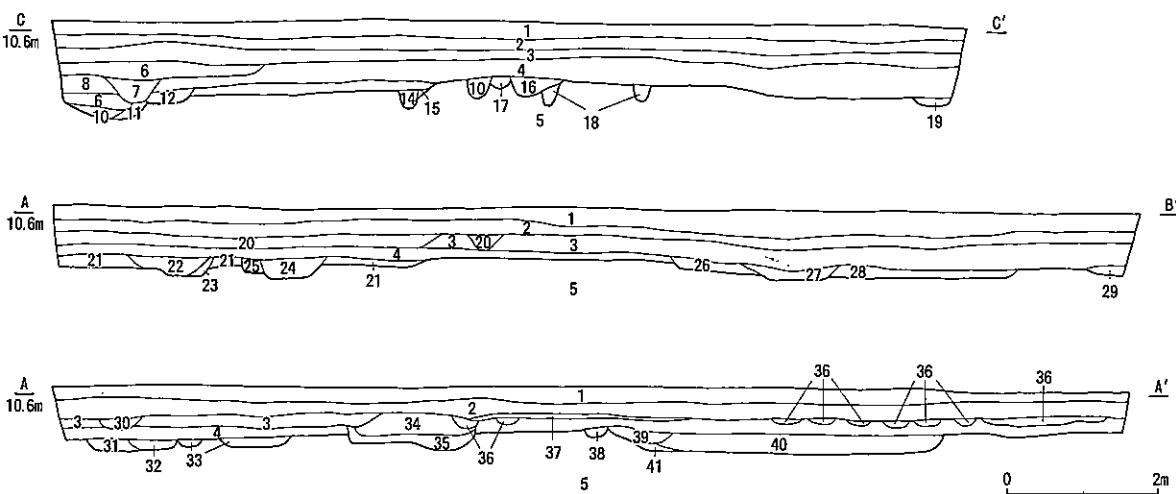
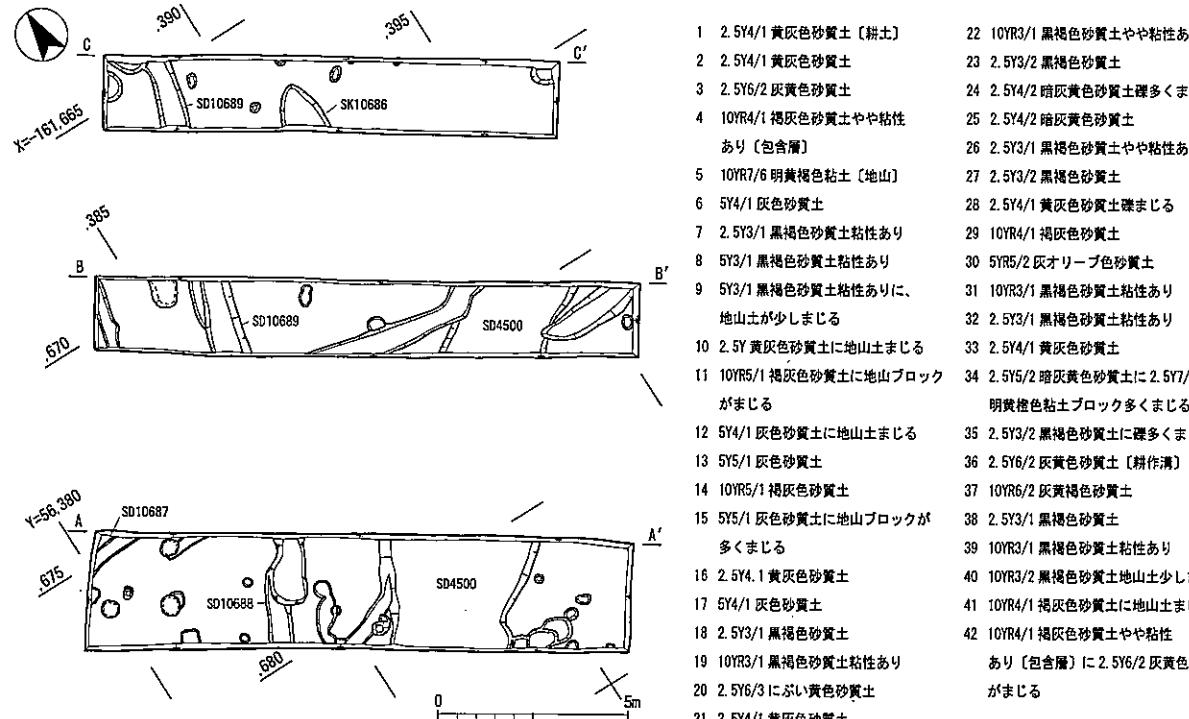
調査期間 平成26年2月12日～2月21日

調査面積 95m²

調査概要 太陽光発電施設の設置に伴い、実施した発掘調査である。調査地は斎宮歴史博物館の北東約200mに位置する畠地である。調査を行ったところ、現地表下0.6mで遺構面を確認した。確認した遺構は、土坑2基、溝9条、柱穴である。このうち、調査区東端では遺構の残りが良好でないものの幅3～4mを測る南北方向の浅

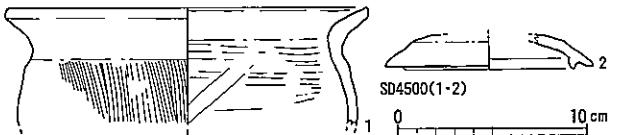


第32図 第179-14次調査区位置図 (1:2,000)



第33図 第179-14次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

い溝状遺構を検出した。第68次、第81-2次調査で確認している奈良時代前半の南北道路 S D 4500の延長上にあり、これにあたるものと考えられる。



第34図 第179-14次調査 遺物実測図 (1:4)

15 第179-15次調査 (6 A K 12・K 13)

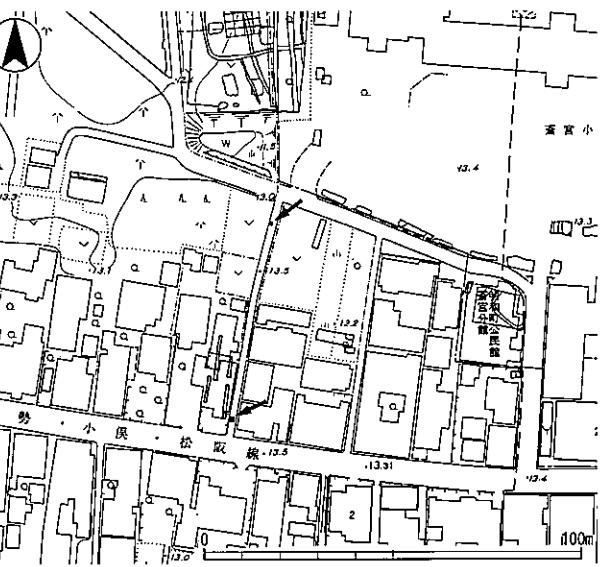
調査場所 多気郡明和町大字斎宮地内

原 因 側溝付替

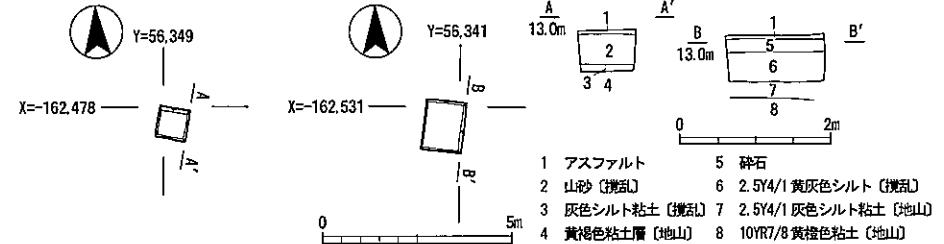
調査期間 平成26年2月21日、3月6日

調査面積 2.0m²

調査概要 道路側溝の改修に伴い実施した発掘調査である。調査地は斎宮小学校の南50mの地点である。遺構面に影響を及ぼすと考えられる集水樹部分について掘削を行ったところ、現地表下60cmで地山面を確認したが、攪乱が地山面直上まで及んでいた。遺構、遺物とも確認されなかった。



第35図 第179-15次調査区位置図 (1:2,000)



第36図 第179-15次調査 遺構平面図 (1:200)・断面図 (1:100)

16 第179-16次調査 (6 A L 11)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字広頭

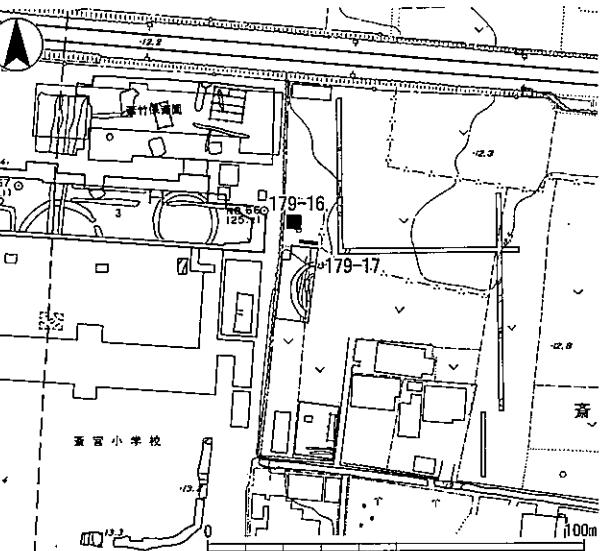
3388番1

原 因 污水貯留槽新設

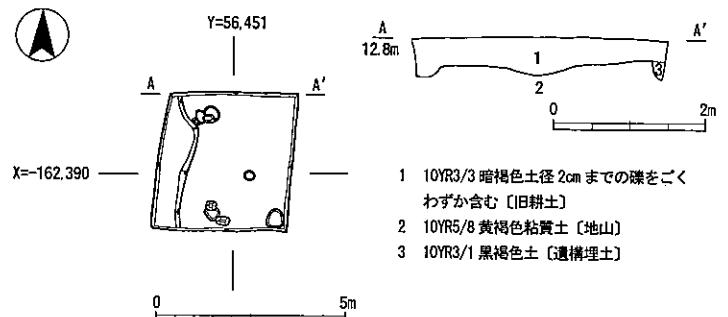
調査期間 平成26年3月28日

調査面積 13.0m²

調査概要 污水貯留槽の新設に伴い実施した発掘調査である。調査地は斎宮小学校東側隣接地である。掘削を行ったところ、現地表下0.3m（標高12.5m）で遺構面を確認した。検出した遺構は柱穴9基である。遺構密度は低く、遺物もわずかに土師器片を出土したにとどまった。



第37図 第179-16・17次調査区位置図 (1:2,000)



第38図 第179-16次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

17 第179-17次調査(6AL12)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字広頭

3388番1

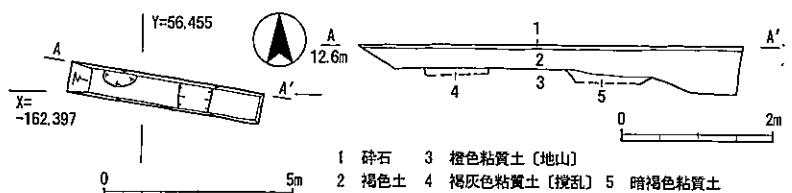
原 因 建物建築

調査期間 平成26年3月28日

調査面積 3.0m²

調査概要 建物建築に伴い実施した工事立会において遺構を検出したことから、発掘調査に切り替えて実施した調査である。調査地は斎宮小学校東側隣接地である。地表下0.3mで遺構を確認した。確認した遺構は溝1条である。溝は幅0.8mで南北方向に延びると考えられ、埋土は暗褐色粘質土である。遺構の所属時期は不明である。

(伊藤文彦)



第39図 第179-17次調査 遺構平面図(1:200)・断面図(1:100)

【註】

(1)『斎宮跡発掘調査報告I』斎宮歴史博物館、2001

次数	遺構名	調査時 遺構名	時期	出土遺物	備考
179-3	SD 10650	溝1	-	土師器・灰釉陶器	
	SK 10651	土坑2	平安時代後期(Ⅲ期)	土師器皿・甕、ロクロ土師器、須恵器	
	SH 10652	土坑4	奈良時代(Ⅰ-3期)	土師器甕、須恵器甕	
	SK 10653	土坑5	平安時代後期(Ⅲ期)	土師器皿・甕、ロクロ土師器、須恵器、綠釉陶器、灰釉陶器、製塙土器、鉄釘	
	SK 10654	土坑6	-	土師器・灰釉陶器	
	SK 10655	土坑8	平安時代後期(Ⅲ期)	土師器甕、ロクロ土師器、灰釉陶器	
	SK 10656	土坑9	平安時代後期(Ⅲ期)	土師器・ロクロ土師器、綠釉陶器	
	SK 10657	土坑10	鎌倉時代	土師器甕・灰釉陶器、伊勢鍋	
	SD 10658	溝1	平安時代後期(Ⅲ期)	土師器甕、ロクロ土師器皿・須恵器、山茶碗	
	SD 10659	溝2	平安時代後期(Ⅲ期)	土師器皿・甕、ロクロ土師器、灰釉陶器	
179-5	SD 10660	溝3	平安時代後期(Ⅲ期)	土師器杯・甕、ロクロ土師器・須恵器、灰釉陶器	
	SA 9487	柱列	-	土師器小片	d9p1, l9p1, f9p1, g9p1, h8p1, h7p1
	SX 10661	土坑1	平安時代中期(Ⅱ-3期)	土師器皿・須恵器	
	SK 10662	土坑2	鎌倉時代	土師器・伊勢型鍋	
	SK 10663	土坑3	-	土師器・灰釉陶器	
	SK 10664	土坑4	奈良～平安	土師器杯・甕	
	SK 10665	土坑5	古墳時代	土師器高壺・甕	
	SH 10666	土坑6	-	弥生土器	
	SK 10667	土坑10	-	弥生土器・土師器	
	SD 10668	溝1	平安時代後期(Ⅲ期)	土師器・ロクロ土師器・須恵器、鐵滓	
179-6	SD 10669	溝2・溝13	平安時代中期(Ⅱ-3期)	土師器杯A・土師器皿・甕・須恵器甕	
	SD 10670	溝4	-	弥生土器・土師器	
	SD 9466	溝6・溝8	平安時代中期(Ⅱ-3期)	土師器・須恵器・灰釉陶器	
	SK 9459	溝7	平安時代中期(Ⅱ-3期)	土師器杯A	
	SD 10671	溝9	-	土師器皿・甕	
	SD 10672	溝10	-	土師器	
	SD 10673	溝11	-	土師器甕・須恵器	
	SK 10674	土坑1	平安時代後期	灰釉陶器	
	SD 10675	溝1	-	土師器・須恵器・灰釉陶器	
	SD 10676	溝3	-	土師器	
179-8	SD 10677	溝	-	土師器	
	SB 10678	掘立柱建物1	平安時代後期(Ⅲ期)	ロクロ土師器・山茶碗・灰釉陶器	y20p1, y21p1・p4
	SB 10679	掘立柱建物2	-	土師器・須恵器	y21p2
	SB 10680	掘立柱建物3	-	土師器	y21p3
	SB 10681	掘立柱建物4	-		
	SK 10682	土坑1	-	土師器・灰釉陶器	
	SK 10683	土坑2	-	灰釉陶器	
	SK 10684	土坑3	-	須恵器	
	SD 10685	溝1	-	土師器・須恵器	
	SK 10686	土坑1	平安時代後期(Ⅲ期か)	土師器	
179-14	SD 10687	溝1	-	土師器	
	SD 10688	溝2	-	土師器	
	SD 10689	溝3	-	土師器	
	SD 4500	溝4	-	土師器甕・須恵器壊蓋	

第2表 第179次調査遺構一覧表

第179-5次調査

番号	器種	器形	出土 遺構	調査時 遺構名	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	登録 番号
1	土師器	杯	SH10652	土坑4	口径 器高 12.3 4.2	外面: ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面: ヨコナデ・オサエ・ナデ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部 10/12	001-08
2	土師器	皿	SH10652	土坑4	口径 器高 14.4 3.2	外面: ヨコナデ・ヘラナデ 内面: ヨコナデ・ナデ	密	良	橙2.5YR6/8	口縁部7/12	002-02
3	土師器	皿	SH10652	土坑4	口径 器高 19.1 4.3	外面: ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラ切り 内面: ヨコナデ・ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部3/12	002-01
4	土師器	皿	SK10653	土坑5	口径 器高 14.0 2.6	外面: ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面: ヨコナデ・ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部2/12	002-03
5	ロクロ 土師器	杯	SK10653	土坑5	口径 器高 14.8 3.6 底径 5.8	外面: ロクロナデ・糸切痕 内面: ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	底部完形 口縁部1/12	003-02
6	土師器	杯	SK10653	土坑5	口径 残高 18.7 4.4	外面: ヨコナデ・オサエ・ナデ 内面: ヨコナデ・ナデ	密	良	橙7.5YR7/8	口縁部1/12	002-04

第3表 第179次調査出土遺物観察表

番号	器種	器形	出土 遺構	調査時 遺構名	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	登録 番号
7	ロクロ 土師器	皿	SK10653	土坑5	底径 残高 4.8 0.9	外面:ロクロナデ、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	底部のみ完 形	002-06
8	灰釉陶器	椀	SK10653	土坑5	底径 残高 6.3 1.6	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部10/12	003-01
9	ロクロ 土師器	台付皿	SK10653	土坑5	底径 残高 4.6 1.6	外面:貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y8/2	底部4/12	002-05
10	土師器	甕	SK10653	土坑5	口径 残高 15.9 4.5	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、工具ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部2/12	003-03
11	製塙土器		SK10653	土坑5	口径 器高 13.2 3.2 14.3	外面:オサエ・ナデ 内面:ナデ	粗	良	橙2.5YR6/6	口縁部1/12	004-01
12	鉄製品	釘	SK10653	土坑5	長さ 重さ 5.3 7.71						004-02
13	ロクロ 土師器	椀	SK10655	土坑8	底径 残高 7.1 1.8	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	底部完形	003-04
14	綠釉陶器	香炉	SK10656	土坑9	底径 残高 11.5 2.5	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	釉:威光茶990	底部1/12	004-03
15	土師器	甕	SK10657	土坑10	口径 残高 22.6 3.1	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	密	良	にぶい褐7.5YR6/3	口縁部1/12	001-09
16	ロクロ 土師器	碗	SD10658	溝1	底径 残高 6.5 1.5	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部完形	001-02
17	ロクロ 土師器	台付皿	SD10658	溝1	口径 器高 14.9 4.1 5.5	外面:ロクロナデ、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部3/12	001-01
18	土師器	小皿	SD10659	溝2	口径 器高 7.8 1.5	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部3/12	001-06
19	土師器	杯	SD10659	溝2	口径 器高 14.6 3.0	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	ほぼ完形	001-03
20	陶器	山茶碗	SD10659	溝2	口径 器高 7.2 1.8	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	口縁部6/12	001-05
21	陶器	山茶碗	SD10659	溝2	底径 残高 8.0 1.7	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕、モミガラ混 内面:ロクロナデ、墨付着	密	良	灰黄2.5Y7/2	底部1/12	001-04
22	土師器	台付 小皿	SD10660	溝3	口径 器高 8.8 3.5	外面:ヨコナデ、オサエナデか?、貼付高台、ナデ 内面:調整不明	密	良	灰白2.5Y8/2	口縁部1/12 底部完形	001-07
23	土師器	小皿	c2P6	柱穴	口径 器高 9.2 1.8	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	口縁部3/12	003-09
24	土師器	皿	柱穴	a1P6	口径 器高 12.0 2.4	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	にぶい橙7.5YR6/4	口縁部2/12	003-06
25	灰釉陶器	椀	柱穴	b1P6	口径 残高 13.7 5.6	外面:ロクロナデ、貼付高台 内面:ロクロナデ	密	良	釉:木蘭色964 素地:黄灰2.5Y6/1	口縁部2/12	003-08
26	灰釉陶器	壺	柱穴	a2P3	底径 残高 5.4 2.5	外面:貼付台付、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	底部3/12	003-07
27	綠釉陶器	椀	柱穴	b2P4	底径 残高 8.3 2.2	外面:ロクロナデ、貼付高台 内面:ロクロナデ、陰刻花文	密	良	釉:常盤緑847	底部1/12	005-01
28	綠釉陶器	椀	包含層	C2	口径 残高 13.9 2.8	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	釉:山鳩色822	口縁部2/12	005-02

第179-6次調査

1	土師器	高杯	SK10665	土坑5	口径 残高 25.3 8.5	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部3/12	001-01
2	土師器	甕	SK10666	土坑6	口径 残高 21.5 10.7	外面:ヨコナデ、ハケメ 内面:ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部4/12	001-02
3	ロクロ 土師器	皿	SD10668	溝1	底径 残高 6.1 1.6	外面:ロクロナデ、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	浅黄橙10YR8/3	底部完形	001-03
4	弥生土器	壺	SD10670	溝4	口径 残高 14.1 4.2	外面:ヨコナデ、ハケメ 内面:ヨコナデ	やや 密	良	にぶい黄橙10YR7/4	口縁部2/12	001-04
5	灰釉陶器	皿	SD9466	溝6	底径 残高 8.4 1.9	外面:ロクロナデ、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	釉:威光茶990 素地:灰白2.5Y7/1	底部2/12	001-05
6	土師器	皿	SK9459	溝7	口径 器高 16.0 2.0	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	橙7.5YR6/6	口縁部1/12	001-06
7	土師器	皿	SD10669	溝13	口径 残高 16.0 2.9	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部1/12	001-07
8	土師器	柱穴	g8 P1	柱穴	口径 器高 13.7 2.7	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁部1/12	002-01
9	弥生土器	壺	c9	包含層	口径 残高 23.7 2.8	外面:ヨコナデ後刺突(キザミメ)、ハケメ(摩滅) 内面:ヨコナデ後刺突(キザミメ)、ハケメ	密	良	にぶい黄橙10YR7/3	口縁部1/12	002-02
10	土師器	皿	b9	包含層	口径 器高 17.4 3.8	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ	密	良	橙5YR7/6	口縁部6/12	002-03
11	陶器	山茶碗	包含層	b9	底径 残高 6.1 1.9	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	浅黄2.5Y7/3	底部5/12	002-04
12	糖羽口		包含層	b9			やや 密	良	にぶい黄橙10YR7/4~灰黄 褐10YR4/2		003-01
13	鉄製品	釘	包含層	b9	長さ 重さ 6.5 3.89						003-02
14	鉄製品	釘	包含層	b9	長さ 重さ 4.5 2.67						003-03

第179-8次調査

1	陶器	山茶碗	SK10674	土坑1	底径 残高 7.3 2.4	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y6/2	底部3/12	001-01
---	----	-----	---------	-----	------------------------	-------------------------------	---	---	-----------	--------	--------

第179-14次調査

1	土師器	甕	SD4500	溝4	口径 残高 19.0 6.3	外面:ヨコナデ、ハケメ 内面:ヨコナデ、ハケメ	密	良	橙7.5YR7/6	口縁部4/12	001-01
2	須恵器	蓋	SD4500	溝4	口径 残高 10.9 1.9	外面:ヘラケズリ、灰カブリ 内面:ロクロナデ	密	良	黄灰2.5Y6/1	口縁部2/12	001-02

第3表 第179次調査出土遺物観察表

付編 史跡現状変更等許可申請

平成25年度に提出された史跡現状変更等許可申請は、44件である。発掘調査を行ったのは、前年度申請分も含め19件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が2件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが17件（うち前年申請分4件）である。

44件の申請の内25件は、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館調査研究課並びに明和町斎宮跡・文化観光課職員の立会いのもとで実施している。

25年度の申請の内容は、一覧表（第4表）のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

(A) 個人等による申請

個人等による申請は、住宅等建設、解体に伴うもので19件あった。うち住宅新築、浄化槽設置、太陽光発電施設設置など発掘調査が必要とされた10件のうち、7件（第179-5、7~10、13、14次調査）について調査を行い、3件は着工時期の関係で次年度調査とした。

他の9件については、住宅建築や撤去、工作物の設置等で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

(C) 史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は7件あり、内容は

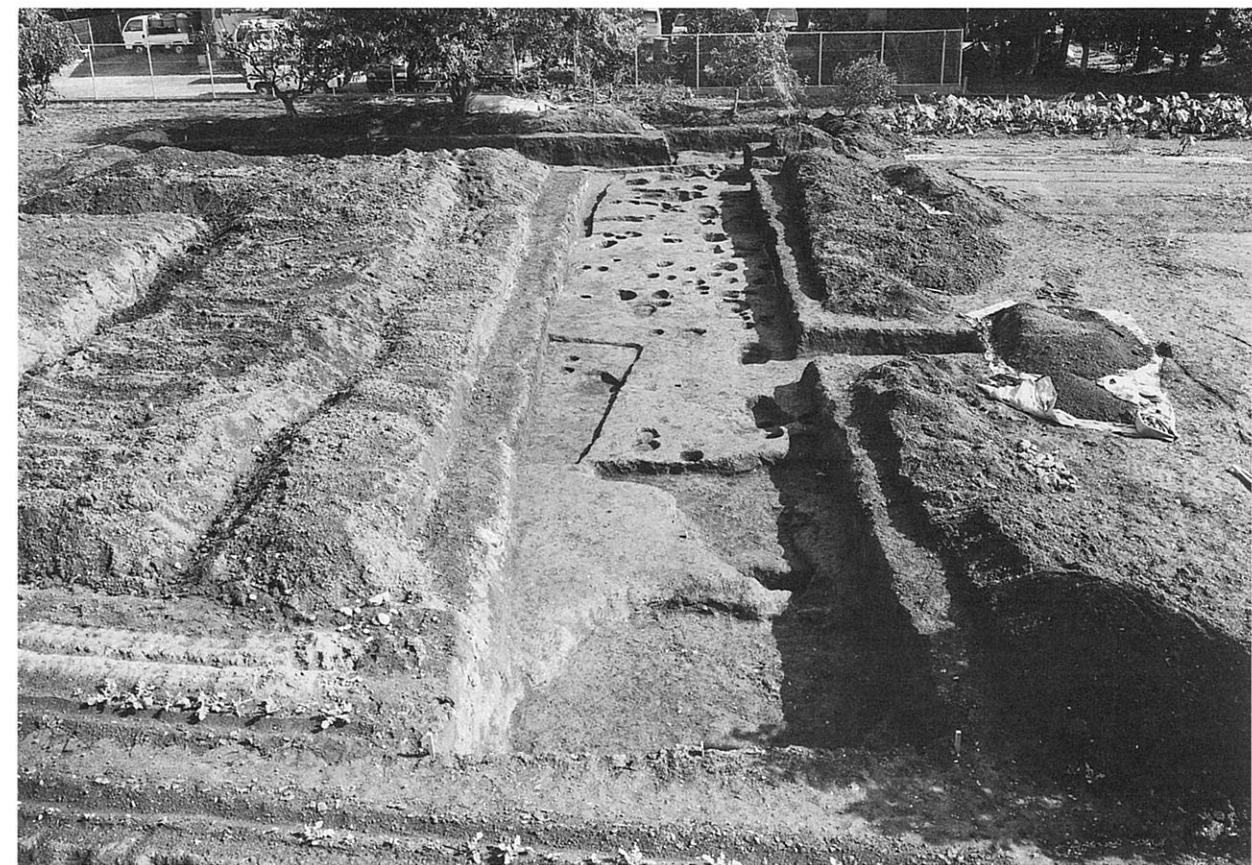
	申請地	種別	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	区分	備考
1	斎宮字内山3068-13、3037-17	B	西日本電信電話(株) 三重支店	電柱建替え	H25. 4. 4	H25. 4. 8	2本	4	
2	竹川字広庭3389-19	B	中部電力(株) 松阪営業所	電柱・支線の新設	H25. 4. 4	H25. 4. 8	1本、1条	4	
3	斎宮字下園2814 斎宮字西加座2666-1・3	D	三重県 (斎宮歴史博物館)	発掘(計画)調査	H25. 4. 22	H25. 5. 17	96. 6m ²	1	第180次調査
4	斎宮字篠林地内	B	明和町 (まち整備課)	側溝改修	H25. 4. 18	H25. 4. 23	L=97m	3	
5	斎宮字中西2748-1	A	個人	ブロック塀新設	H25. 5. 2	H25. 5. 13	L=14. 05m	4	
6	竹川字南裏249	A	個人	ブロック塀等新設	H25. 5. 13	H25. 5. 20	L=10m	4	
7	斎宮字楽殿2819-2	D	三重県 (斎宮歴史博物館)	発掘(計画)調査	H25. 5. 16	H25. 6. 21	269. 6m ²	1	第181次調査
8	竹川字中垣内469	B	西日本電信電話(株) 三重支店	電話柱建替え	H25. 5. 15	H25. 5. 27	2本	4	
9	斎宮字笛川2357-1-3	A	個人	テラス付替等改修	H25. 5. 31	H25. 6. 18	1基	4	
10	斎宮字東前沖2492-2	A	個人	住宅撤去	H25. 6. 11	H25. 7. 19	223. 4m ²	4	
11	斎宮字笛川1065-3の一部、 1065-4	A	個人	住宅改築	H25. 6. 11	H25. 7. 19	69. 97m ²	4	第179-13次調査
12	斎宮字東前沖2494-3	A	個人	住宅新築	H25. 6. 12	H25. 7. 19	72. 86m ²	3	第179-5次調査
13	斎宮字牛葉3014 斎宮字牛葉3018-2	B	西日本電信電話(株) 三重支店	電話柱建替	H25. 6. 13	H25. 6. 24	3本	4	
14	竹川字中垣内453-1地先	B	西日本電信電話(株) 三重支店	電話柱建替	H25. 6. 17	H25. 6. 20	1本	3	
15	竹川古里503	C	三重県 (斎宮歴史博物館)	モニュメント改修	H25. 8. 20	H25. 8. 27	1基	3	
16	竹川字中垣内375-1	A	個人	浄化槽新設	H25. 8. 19	H25. 10. 18	1基	4	第179-7次調査
17	竹川字中垣内434-1、464-2	A	個人	太陽光発電施設設置	H25. 8. 22	H26. 1. 17	4基	3	第182-1次調査
18	竹川字東裏地内	B	明和町 (まち整備課)	側溝付替	H25. 8. 27	H25. 11. 15	52. 5m	3	第179-15次調査
19	竹川字中垣内434-1、464-2	D	明和町 (斎宮跡・文化観光課)	発掘調査	H25. 9. 17	H25. 10. 18	154m ²	3	第179-6次調査
20	斎宮字上園3110	C	明和町 (斎宮跡・文化観光課)	照明設置	H25. 9. 12	H25. 10. 3	1基	1	
21	斎宮字牛葉2757-2	B	西日本電信電話(株) 三重支店	電話柱建替	H25. 10. 1	H25. 10. 22	2本	4	
22	竹川字東裏354-4	B	西日本電信電話(株) 三重支店	電話柱建替	H25. 10. 1	H25. 10. 22	2本	4	
23	斎宮字牛葉110	A	個人	浄化槽改修	H25. 10. 1	H25. 11. 15	2基	4	第179-9次調査
24	斎宮字鍛冶山2759-5ほか5筆	B	近鉄日本鉄道(株)	排水溝設置	H25. 10. 11	H25. 11. 15	L=78. 3m	3	
25	斎宮字広頭3388-1	B	明和町 (福祉子育て課)	建物建築	H25. 10. 15	H25. 11. 15	153m ²	3	第179-17次調査
26	斎宮字中西611	A	個人	倉庫建替	H25. 10. 15	H25. 11. 15	66. 42m ²	4	
27	斎宮字西加座2659-3	A	個人	フェンス新設	H25. 10. 15	H25. 10. 22	L=20m	4	
28	斎宮字鈴池地内	B	西日本電信電話(株) 三重支店	支線新設	H25. 10. 16	H25. 10. 31	1条	3	
29	斎宮字古里3282	A	個人	住宅新築	H25. 10. 23	H25. 12. 13	61. 89m ²	3	第179-8次調査
30	斎宮字篠林3196	C	明和町 (斎宮跡・文化観光課)	案内板設置	H25. 10. 24	H25. 11. 7	1基	1	
31	斎宮字中西606	A	個人	住宅改築	H25. 11. 6	H26. 12. 13	99. 38m ²	4	
32	竹川字東裏278-3、278-4	A	個人	浄化槽新設	H25. 11. 7	H26. 12. 13	1基	4	第179-10次調査
33	斎宮字内山3046-12 斎宮字御館2970-2	C	明和町 (斎宮跡・文化観光課)	発掘調査	H25. 11. 7	H26. 12. 13	21. 8m ²	1	第179-12次調査
34	斎宮字西前沖2604-1	A	株式会社ナントラ	プレハブ建替	H25. 11. 8	H26. 12. 13	94. 47m ²	4	
35	斎宮字西前沖2604-49	C	明和町 (斎宮跡・文化観光課)	発掘調査	H25. 11. 8	H26. 12. 13	224m ²	3	第179-11次調査
36	斎宮字御館2969-1	C	(公財)国史跡資宮跡 保存協会	モニュメント設置	H25. 11. 20	H25. 12. 2	1基	1	
37	竹川字古里592-11	A	個人	太陽光発電施設設置	H25. 11. 22	H26. 1. 17	3基	3	第179-14次調査
38	竹川字南裏247	B	中部電力(株) 松阪営業所	電柱建替	H26. 1. 8	H26. 1. 27	1本	3	
39	斎宮字御館地内	C	明和町 (斎宮跡・文化観光課)	発掘調査	H26. 2. 4	H26. 3. 18	50m ²	1	第182-15次調査
40	斎宮字広頭3388-11・13	A	個人	U字溝新設	H26. 2. 7	H26. 3. 18	L=24m	4	
41	斎宮字広頭3388-1	B	明和町 (福祉子育て課)	汚水貯留槽新設	H26. 2. 12	H26. 3. 18	1基	3	第179-16次調査
42	竹川字古里、斎宮字塚山地内	B	三重県 (松阪建設事務所)	舗装・区画線設置工事	H26. 2. 18	H26. 2. 21	L=80m	3	
43	斎宮字古里3267-1、3267-2	A	個人	住宅新築	H26. 3. 5	H26. 4. 18	81. 75m ²	3	第182-2次調査
44	斎宮字古里3259-1	A	個人	住宅新築	H26. 3. 17	H26. 4. 18	63. 77m ²	3	第182-3次調査

写真図版

第4表 平成25年度現状変更等許可申請一覧表



写真図版1 第179-5次調査 全景（東から）



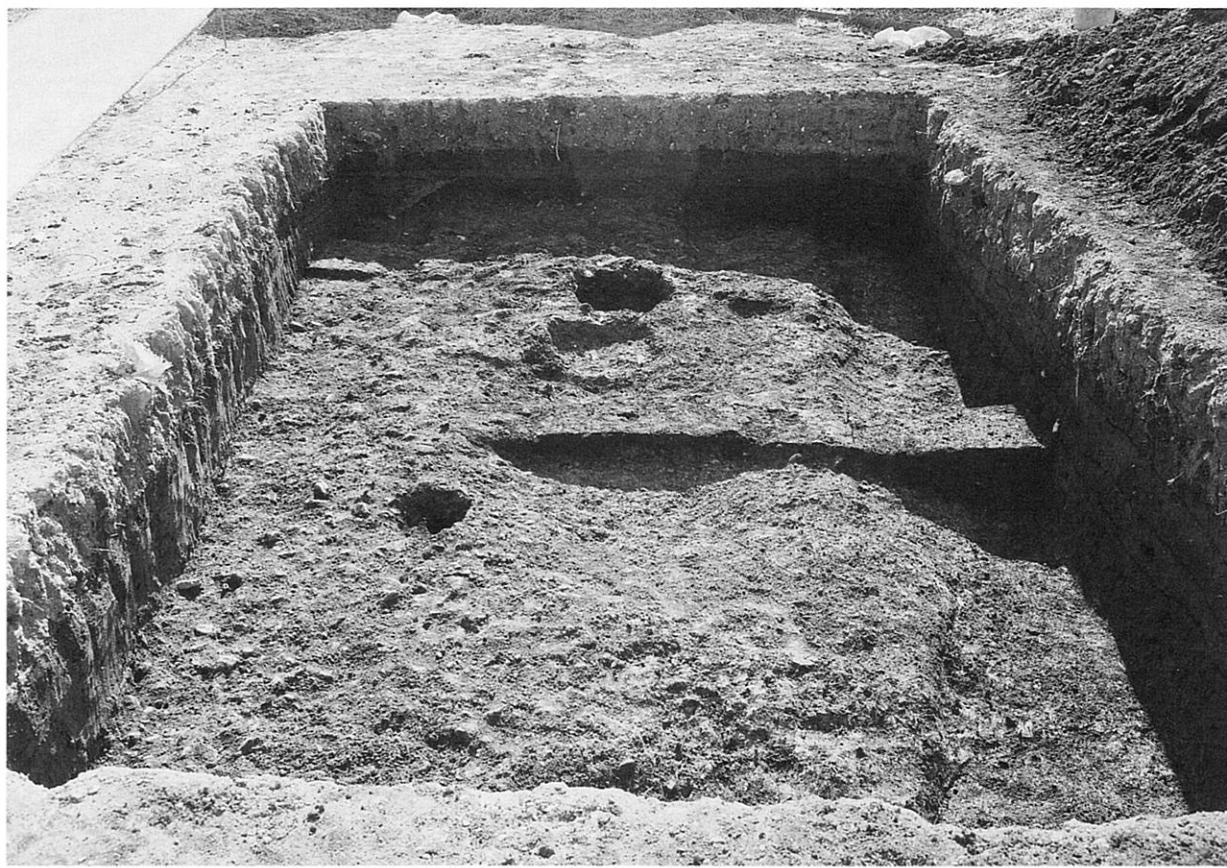
写真図版3 第179-6次調査全景（西から）



写真図版2 第179-5次調査SH10652（北から）



写真図版4 第179-6次調査全景（北から）



写真図版5 第179-8次調査全景（北から）



写真図版6 第179-12次調査西トレンチ全景（東から）



写真図版7 第179-12次調査中央トレンチ全景（北から）



写真図版8 第179-16次調査全景（南から）

報告書抄録



写真図版9 第179-11次調査全景（北から）



写真図版10 第179-14次調査南西トレンチ全景（北西から）



写真図版11 第179-14次調査中央トレンチ全景（北西から）



写真図版12 第179-14次調査北東トレンチ全景（北西から）

ふりがな	しせきさいくうあと へいせいにじゅうごねんじょうへんこうきんきゅうはつくつちょうさほうこく							
書名	史跡斎宮跡 平成25年度現状変更緊急発掘調査報告							
副書名								
卷次								
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	31							
編著者名	伊藤文彦 中野敦夫							
編集機関	斎宮歴史博物館（調査研究課） 明和町（斎宮跡・文化観光課）							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 TEL 0596 (52) 7126							
発行年月日	西暦 2015年3月13日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		m ²	
きいくうあと 斎宮跡	たき ぐんめいわちょう 多気郡明和町 きいくう たけがわ 斎宮・竹川	24442	210	34° 31' 55" ~ 34° 32' 30"	136° 36' 16" ~ 136° 37' 37"	20130401 ~ 20140331	全17件 606.2m ²	史跡現状変更に 伴う緊急発掘調 査（史跡斎宮跡 第179次調査）
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
斎宮跡第179次	官衙	飛鳥・奈良 平安・近世	溝・土坑 ピット 掘立柱塀	土師器 須恵器 灰釉陶器 近世陶器				
要約	第179次調査は、史跡内における現状変更に伴う緊急発掘調査である。ほとんどの調査は住宅新築・改築等に伴うものである。いずれも小規模な調査であり、多くの遺構は確認することはできなかったが、史跡内での新たなデータを蓄積することができた。なお、第179-6次調査では平安時代前期の区画溝と、それに平行する掘立柱塀を検出し注目される。							

史跡 斎宮跡
平成25年度
現状変更緊急発掘調査報告

平成27(2015)年3月13日

編集 斎宮歴史博物館
発行 明和町
印刷 光出版印刷株式会社